

## 2 地域住民のニーズ把握

### 2-1 熊谷市公共交通に関する市民アンケート調査

熊谷市公共交通に関する市民アンケート調査は、日常的な交通行動、公共交通の利用状況やサービスに対する満足度、公共交通の利用意向及び公共交通の維持・確保意向等を把握し、今後の公共交通のあり方を検討するに当たっての基礎資料として活用するために実施した。

<b>調査対象者</b>	住民基本台帳から無作為抽出した15歳以上の市民3,000人
<b>調査方法</b>	郵送配布、郵送回収
<b>調査日</b>	平成27年10月10日（土）～平成27年10月20日（火）
<b>調査項目</b>	①回答者の属性（性別、年齢、職種、居住地、運転免許証の有無、自由に使える自動車などの保有状況、自宅近くのバス停留所の有無） ②ゆうゆうバスの認知度 ③日常的な交通行動（主な行き先、交通手段、外出頻度） ④バス（民間の路線バス、ゆうゆうバス）の利用状況等 ○バスの利用状況等（利用頻度、利用目的、利用しない理由、サービスが改善された場合の利用意向、サービスに対する満足度） ○外出する時に困ることの有無と困っている時の外出目的 ⑤鉄道（JR高崎線・秩父鉄道・新幹線）の利用状況等（主な利用駅、利用目的、サービスに対する満足度） ⑥タクシーの利用状況等（利用頻度、利用目的、サービスに対する満足度） ⑦公共交通の利用意向（公共交通を利用して行きたい場所（上位3位を回答）、利用目的、利用頻度、利用時間帯） ⑧公共交通の維持・確保意向（公共交通の取組の方向性、公共交通を維持・充実していくための方法、効果的な公共交通の利用促進策）
<b>回収状況</b>	回収票数1,345票（回収率44.8%） ※熊谷地区：679票、大里地区：133票、妻沼地区：360票、江南地区：154票、住所無回答：19票

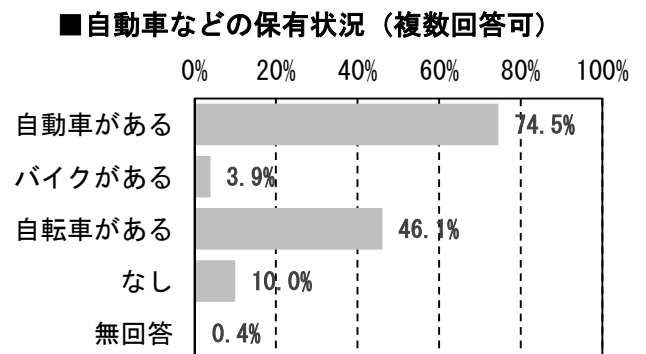
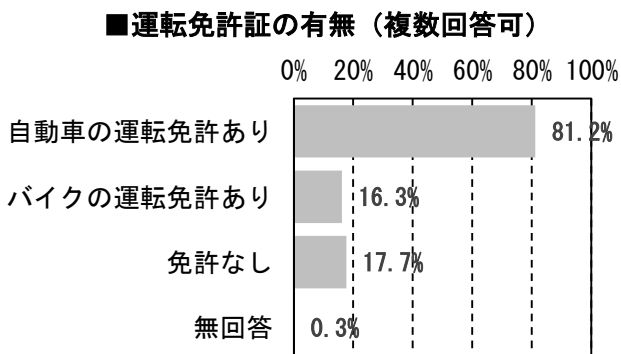
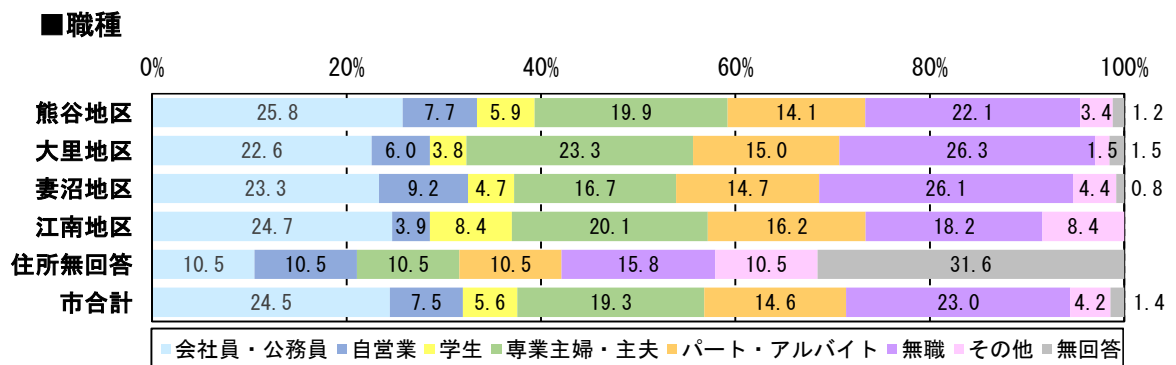
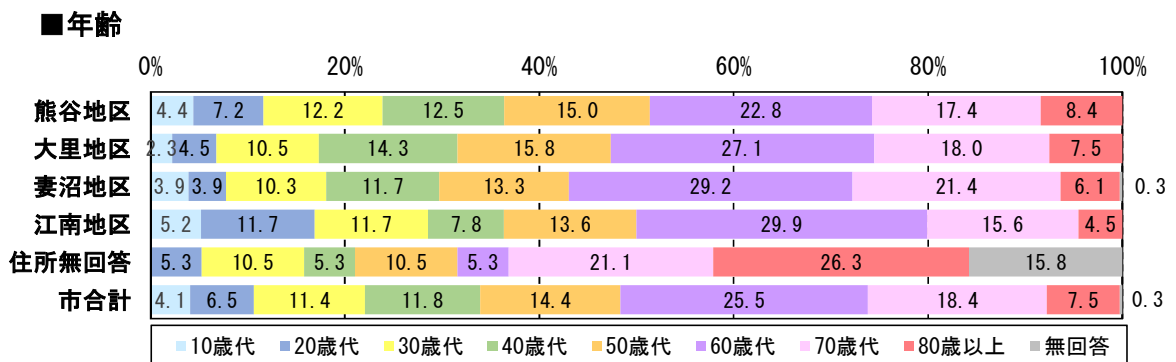
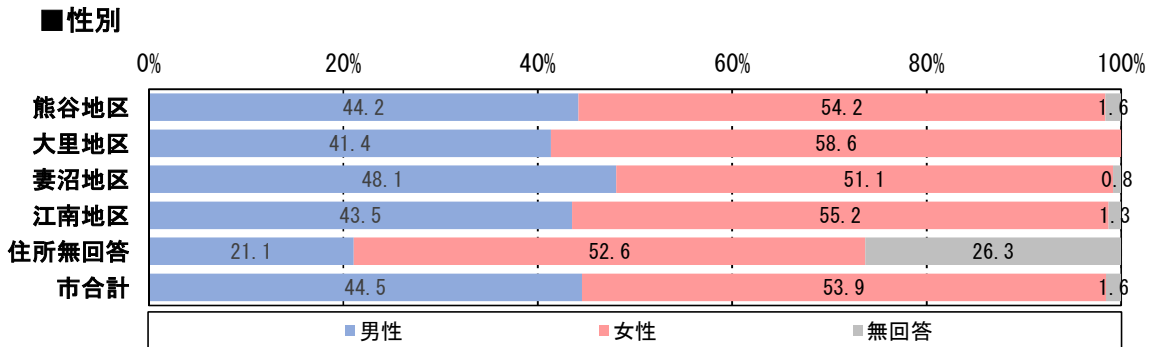
（注）比率は全て百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

## (1) 回答者の属性

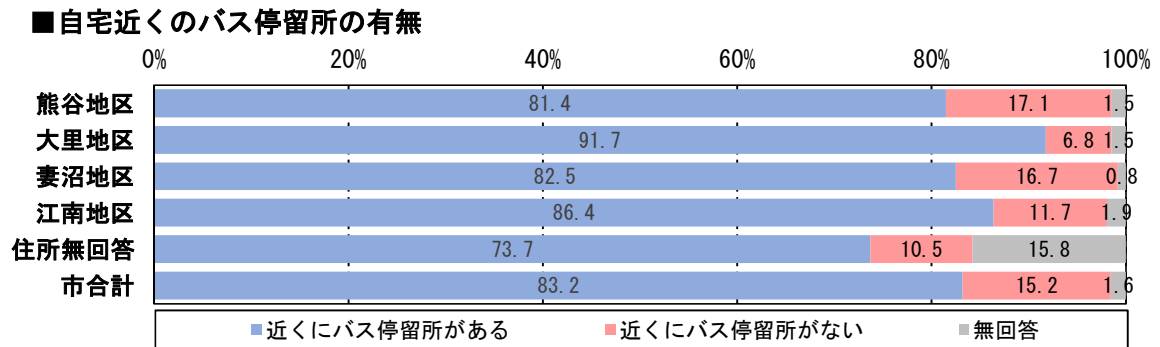
回答者の性別については「女性」の回答者が53.9%と男性よりも多く、年齢は「60歳代(25.5%)」が最も多く、60歳以上の方が51.4%を占めている。

回答者の職種は「会社員・公務員」が24.5%と最も多く、次いで「無職(23.0%)」、「専業主婦・主夫(19.3%)」となっている。

運転免許証の有無を見ると、回答者の約80%の人が自動車運転免許又はバイク運転免許を保有しており、回答者の約20%の人はいずれの免許も保有していない。自動車などの保有状況を見ると、自動車、バイク又は自転車のいずれも保有していない人は全回答者の10.0%となっている。

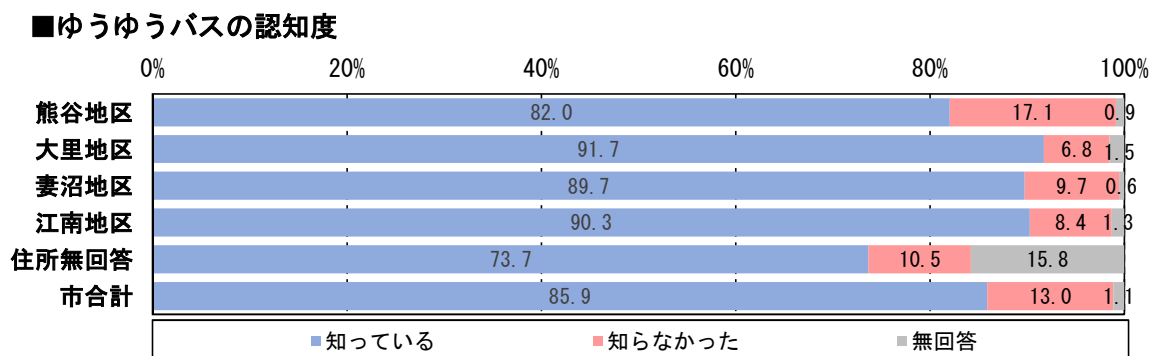


自宅近くのバス停留所へのアクセスは、「近くにバス停留所がある」と回答した方が83.2%を占め、各地区とも約80%を超えている。



## (2) ゆうゆうバスの認知度

ゆうゆうバスの認知度は、85.9%の人が「知っている」と回答し、各地区とも約80%を超えている。



### (3) 日常的な交通行動

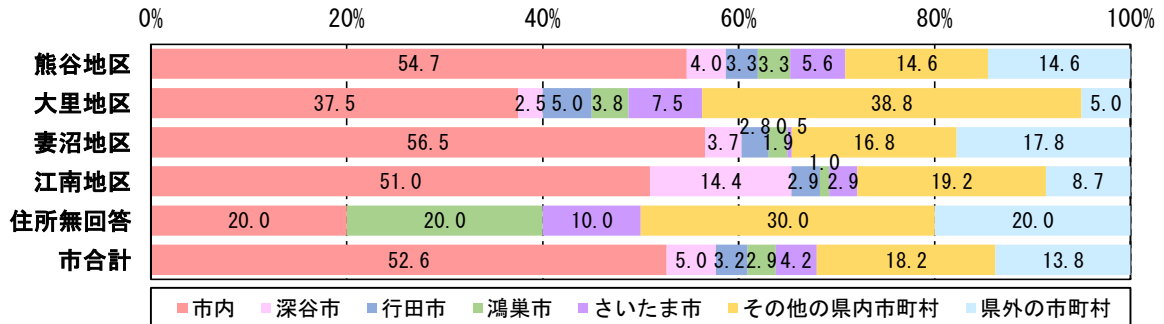
#### ①通勤・通学の場合

通勤・通学先は、熊谷・妻沼・江南地区で「市内」への移動が最も多いものの、大里地区で「その他の県内市町村」が多くなっている。

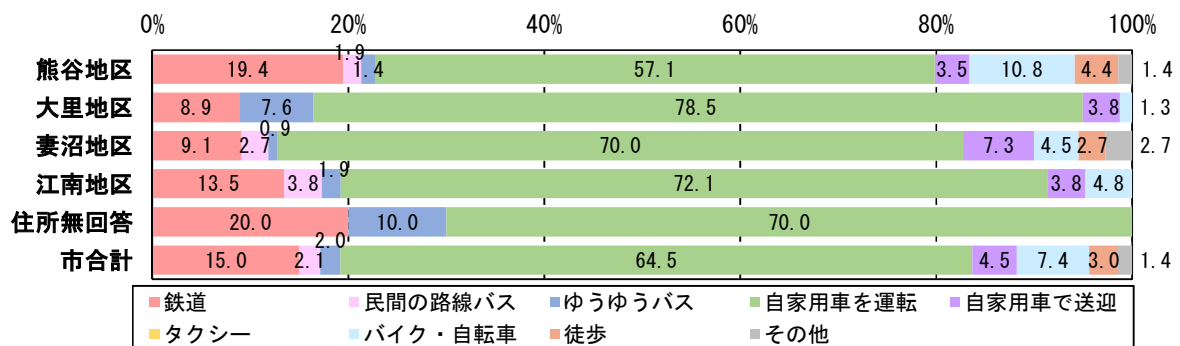
通勤・通学時の交通手段として、市合計で64.5%の人が「自家用車を運転」と回答し、民間の路線バスとゆうゆうバスは4.1%となっている。

通勤・通学目的による外出頻度は、どの地区も「週に5日以上」が最も多くなっている。

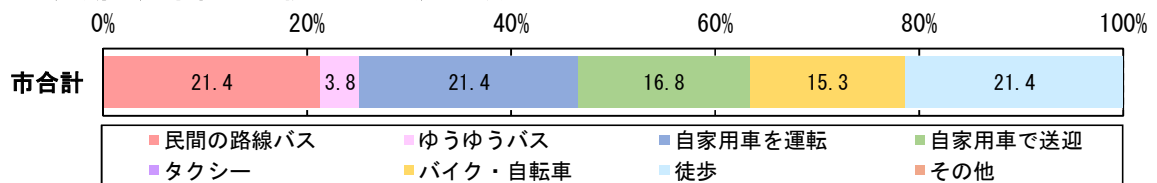
#### ■通勤・通学目的による主な行き先



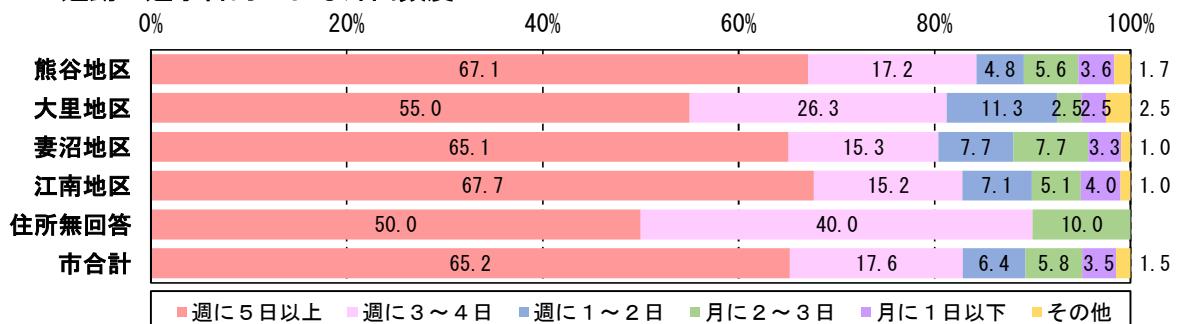
#### ■通勤・通学目的による交通手段



#### ■通勤・通学目的の駅までの交通手段



#### ■通勤・通学目的による外出頻度



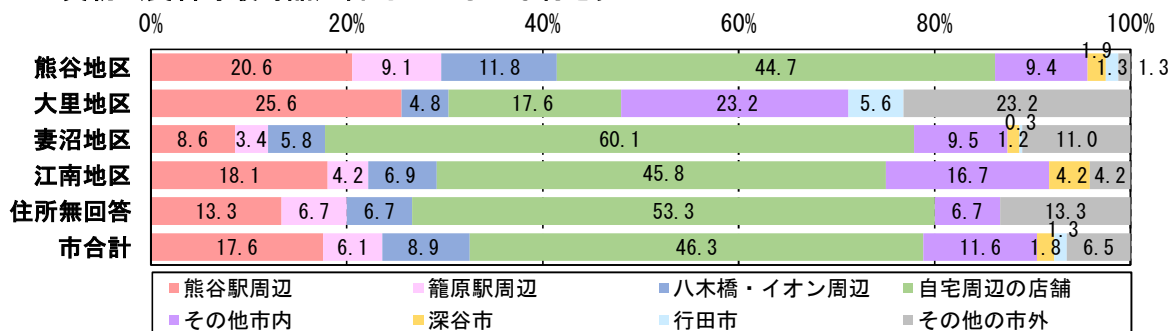
②買物（食料等最寄品）の場合

買物時の行き先は、「自宅周辺の店舗」が46.3%と最も多く、次いで「熊谷駅周辺（17.6%）」となっており、地区別に見ると、大里地区で「その他の市外」「行田市」と市外への移動が28.8%と多くなっている。

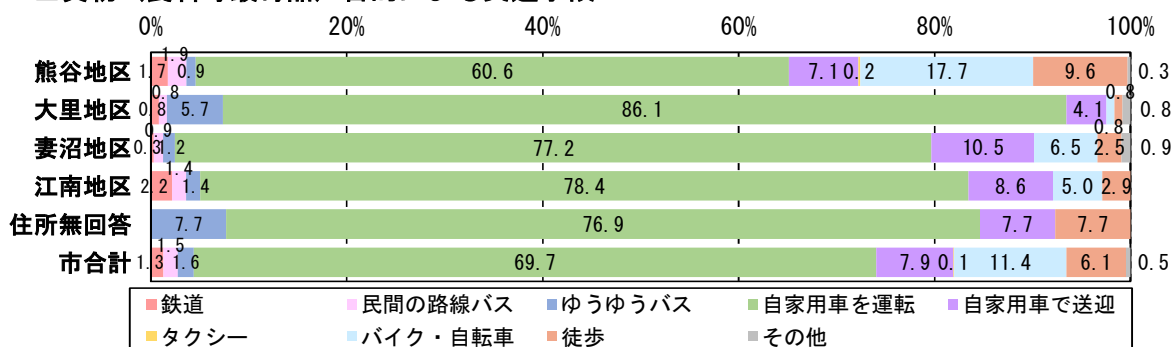
買物時の交通手段として、市合計で69.7%の人が「自家用車を運転」と回答し、民間の路線バスとゆうゆうバスは3.1%となっている。

買物目的による外出頻度は、どの地区も「週に1～2日」が最も多くなっている。

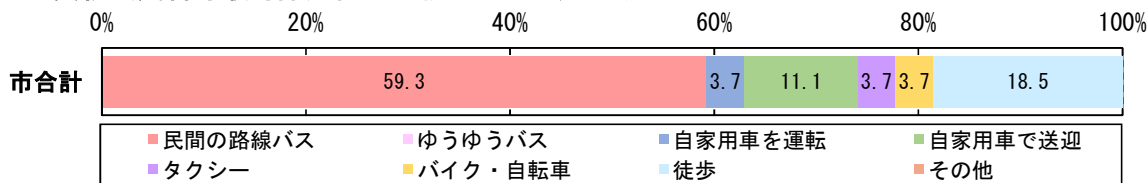
■買物（食料等最寄品）目的による主な行き先



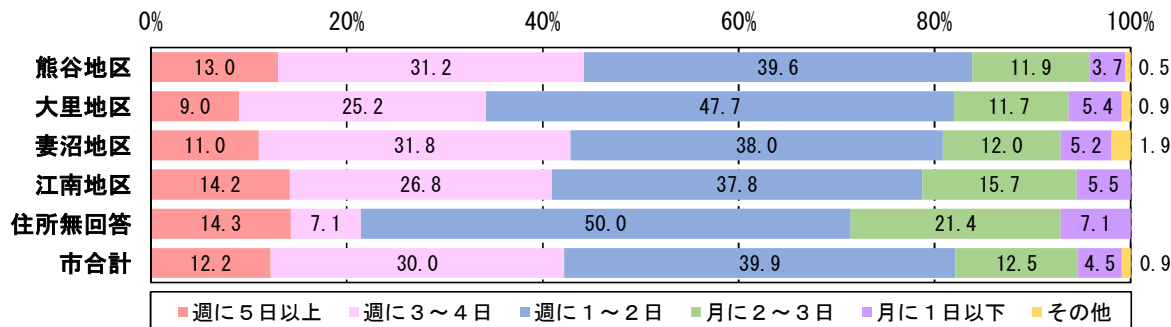
■買物（食料等最寄品）目的による交通手段



■買物（食料等最寄品）目的の駅までの交通手段



■買物（食料等最寄品）目的による外出頻度



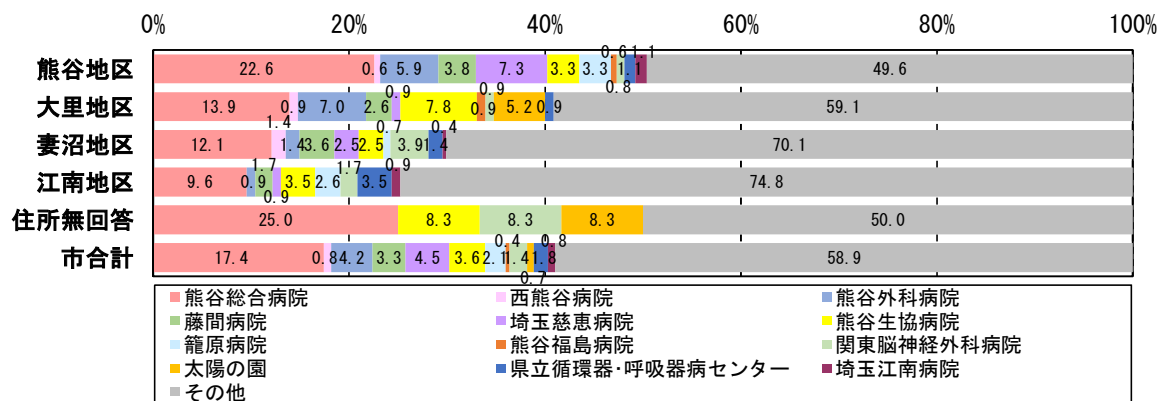
### ③通院の場合

通院先は、どの地区も「その他」が最も多く、次いで「熊谷総合病院」が多くなっている。

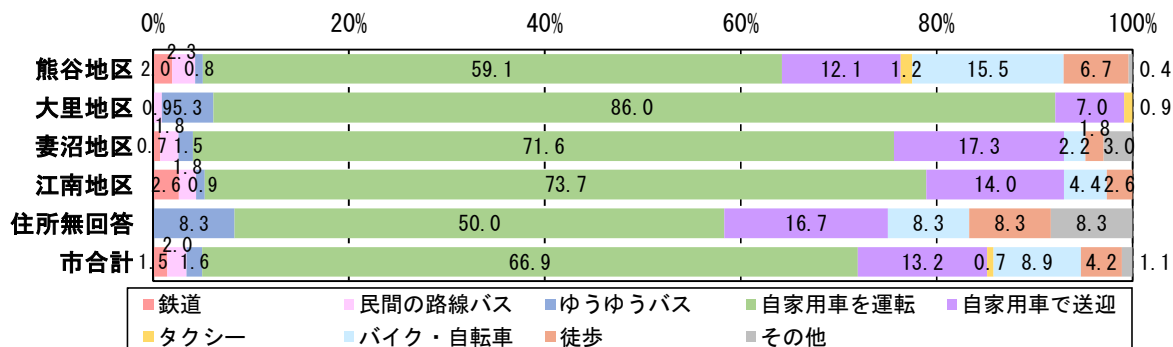
通院時の交通手段として、市合計で66.9%の人が「自家用車を運転」と回答し、次いで「自家用車で送迎（13.2%）」が多く、民間の路線バスとゆうゆうバスは3.6%となっている。

通院目的による外出頻度は、どの地区も「月に1日以下」が最も多くなっている。

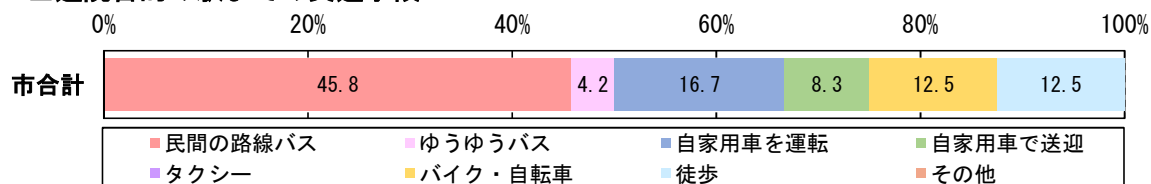
#### ■通院目的による主な行き先



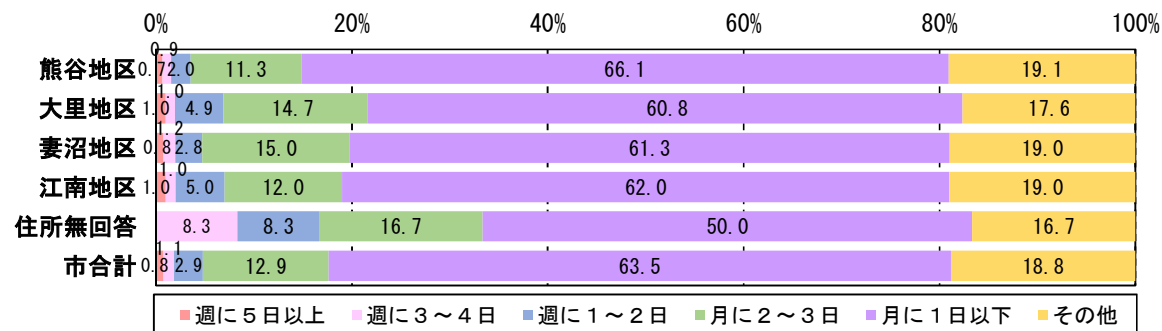
#### ■通院目的による交通手段



#### ■通院目的の駅までの交通手段



#### ■通院目的による外出頻度



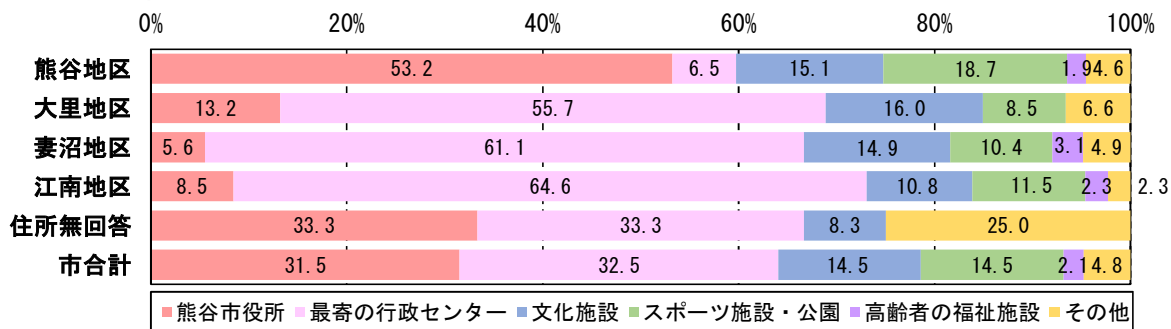
④公共施設利用の場合

公共施設利用時の行き先は、熊谷地区が「熊谷市役所（53.2%）」、その他3地区で「最寄りの行政センター」が最も多くなっている。

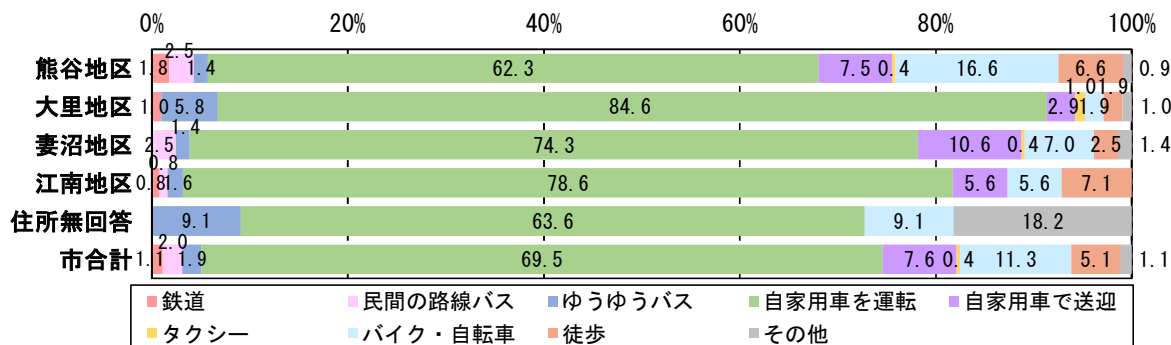
公共施設利用目的の交通手段として、市合計で69.5%の人が「自家用車を運転」と回答し、民間の路線バスとゆうゆうバスは3.9%となっている。

公共施設利用目的による外出頻度は、どの地区も「月に1日以下」が最も多くなっている。

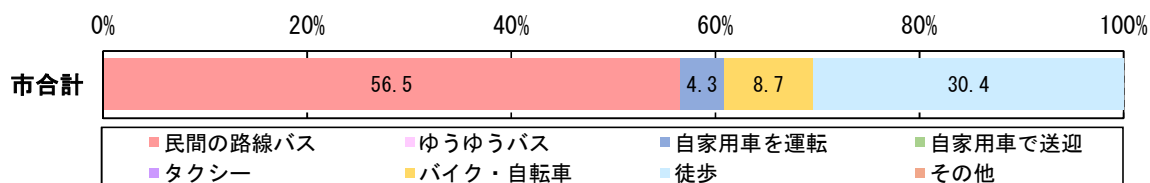
■公共施設利用目的による主な行き先



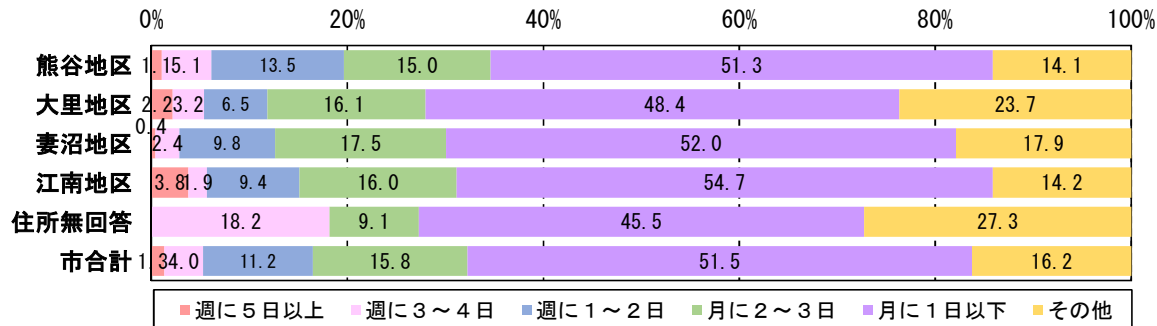
■公共施設利用目的による交通手段



■公共施設利用目的の駅までの交通手段



■公共施設利用目的による外出頻度



#### (4) バス（民間の路線バス、ゆうゆうバス）の利用状況等

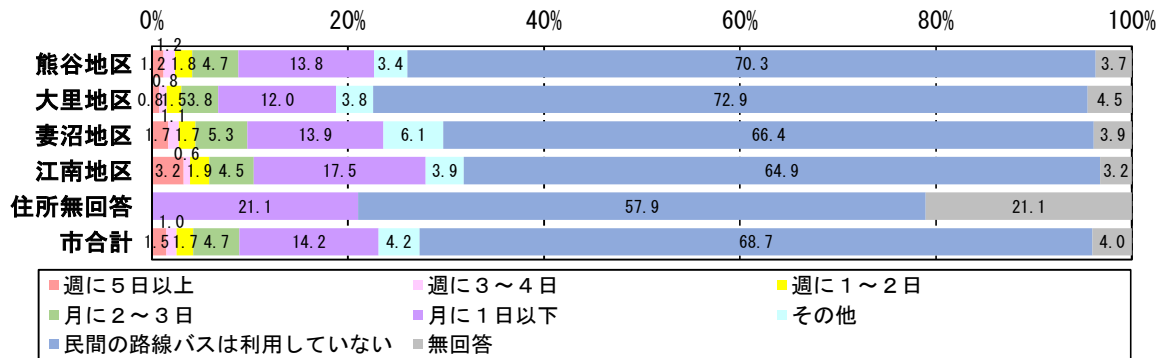
##### ①バスの利用状況

バスの利用頻度としては、民間の路線バスが27.3%、ゆうゆうバスが12.6%の人が利用しているものの、「月に1日以下」、「月に2～3日」といった低頻度の利用が多くなっている。

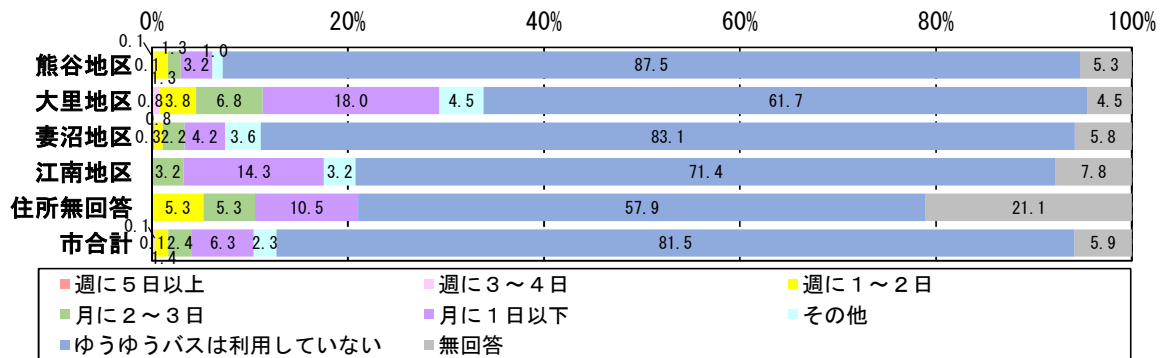
利用目的としては、民間の路線バス、ゆうゆうバスともに「趣味・娯楽」、「買物」目的が多くなっている。

##### ■利用頻度

###### 【民間の路線バス】

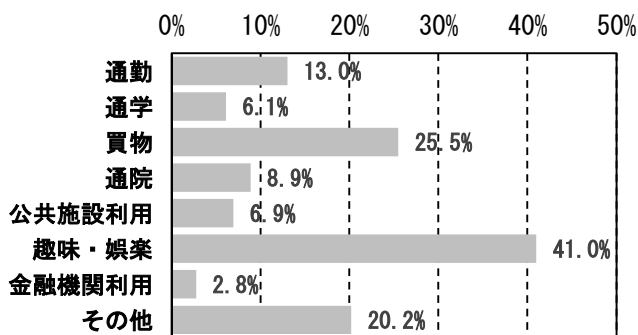


###### 【ゆうゆうバス】

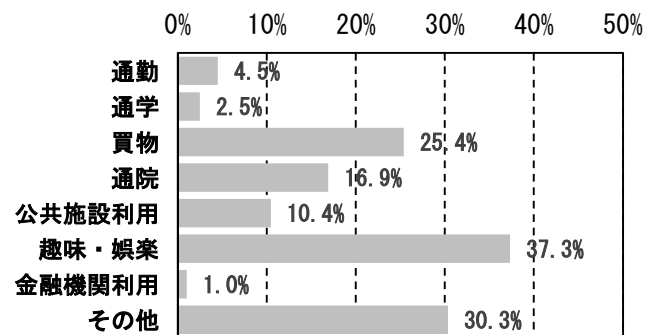


##### ■利用目的（複数回答可）

###### 【民間の路線バス】



###### 【ゆうゆうバス】



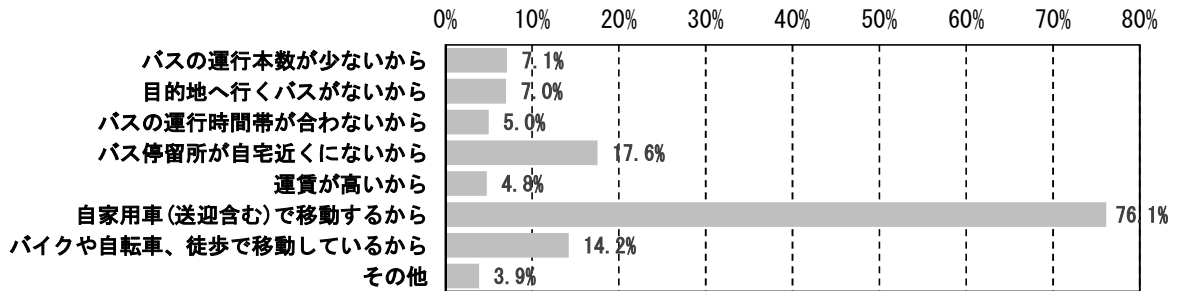


バスを利用しない理由としては、民間の路線バス、ゆうゆうバスともに「自家用車（送迎含む）で移動するから」が最も多く、次いで「バス停留所が自宅近くにないから」となっている。

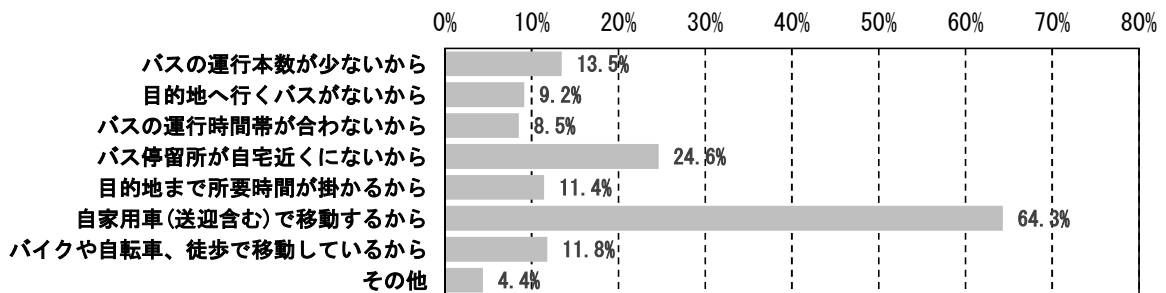
サービスが改善された場合の利用意向としては、「利用すると思う」と回答した方は、民間の路線バスが29.7%、ゆうゆうバスが37.6%を占めている。

### ■利用しない理由（「利用していない」と回答した方のみ、複数回答可）

#### 【民間の路線バス】

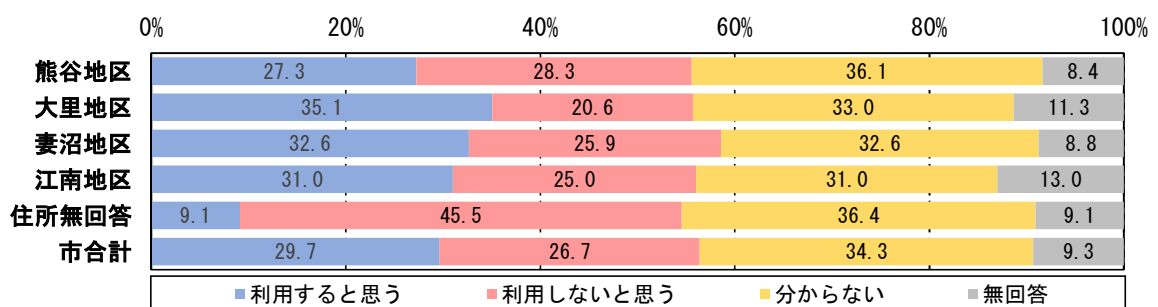


#### 【ゆうゆうバス】

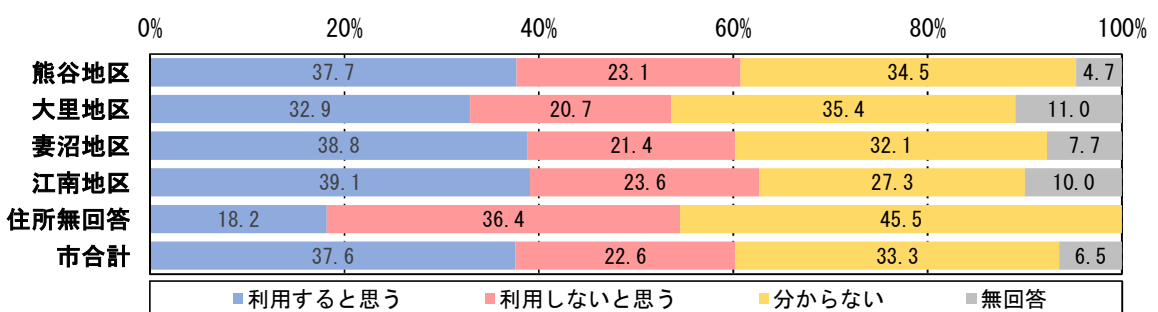


### ■サービスが改善された場合の利用意向（「利用していない」と回答した方のみ）

#### 【民間の路線バス】



#### 【ゆうゆうバス】



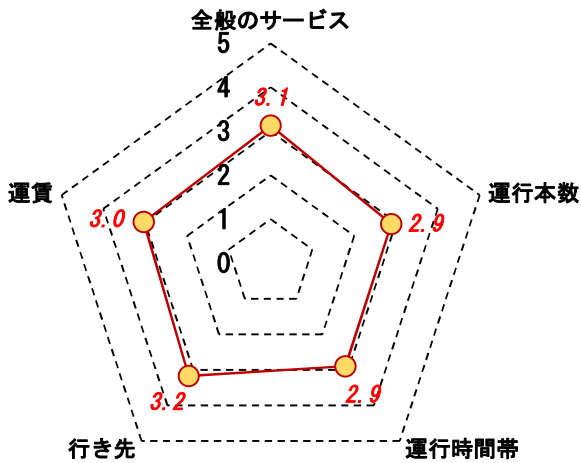
②運行サービスに対する満足度

運行サービスに対する満足度として、民間の路線バスは全体的に平均的な評価となっている。

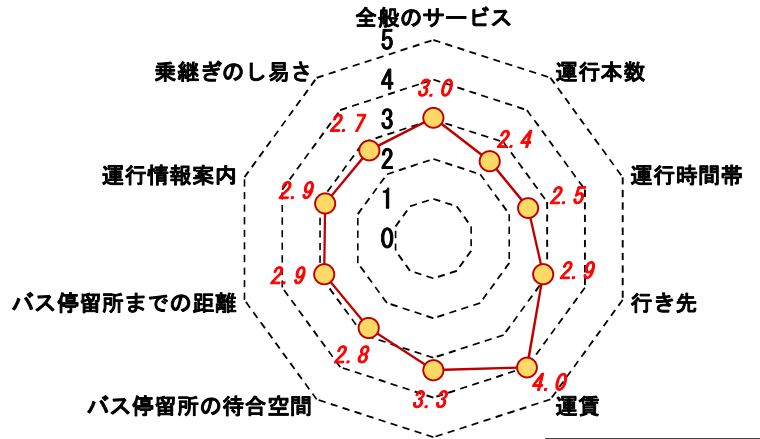
ゆうゆうバスは、「運賃」で高い評価を得ているものの、「運行本数」、「運行時間帯」及び「乗り継ぎのし易さ」などで評価が低くなっている。

■運行サービスに対する満足度

【民間の路線バス】



【ゆうゆうバス】

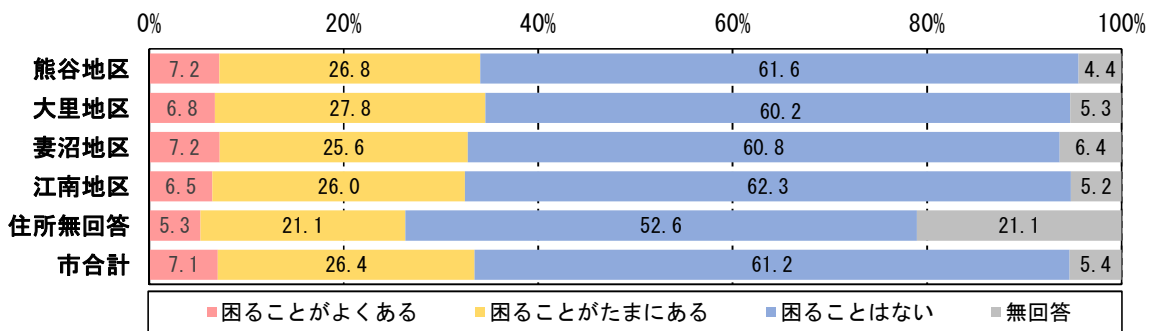


満足：5  
 やや満足：4  
 どちらでもない：3  
 やや不満：2  
 不満：1

③外出する時に困ることの有無と困っている時の外出目的

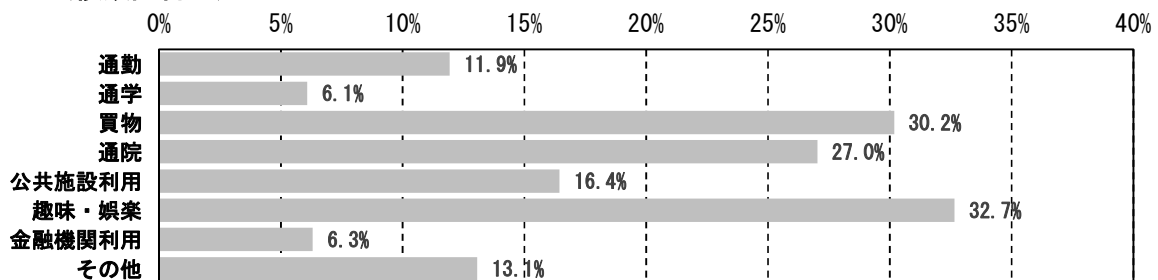
回答者全体のうち、外出する時に7.1%の人が「困ることがよくある」、26.4%の人が「困ることがたまにある」との回答があり、特に「趣味・娯楽 (32.7%)」、「買物 (30.2%)」、「通院 (27.0%)」目的で外出する時に困るとの回答が多くなっている。

■外出する時に困ることの有無



■困っている時の外出目的（「困ることがよくある」、「困ることがたまにある」と回答した方のみ）

(複数回答可)



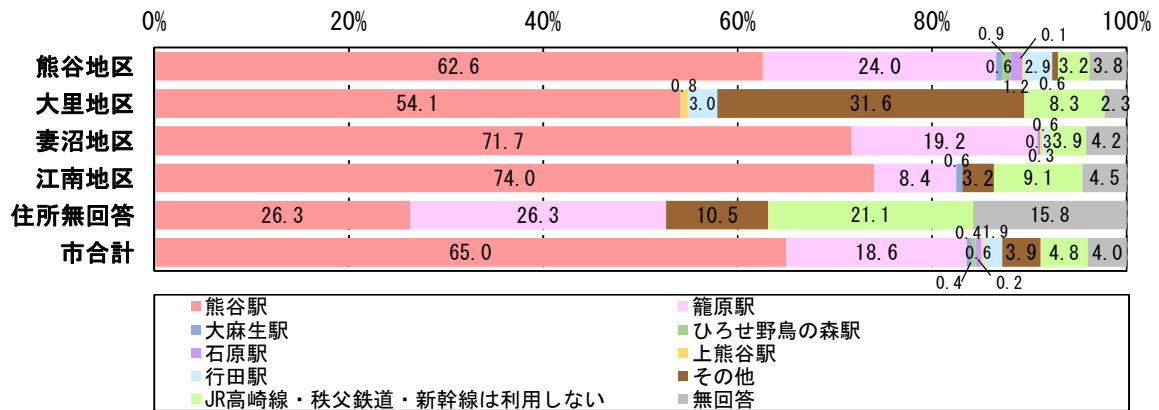
### (5) 鉄道（JR 高崎線・秩父鉄道・新幹線）の利用状況等

主な利用鉄道駅は、どの地区も「熊谷駅」が多く、次いで地区別に見ると、大里地区で「その他（31.6%）」が多くなっている。

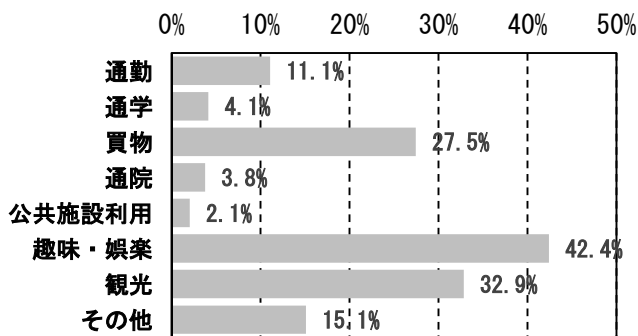
利用目的としては、「趣味・娯楽（42.4%）」、「観光（32.9%）」及び「買物（27.5%）」目的での利用が多くなっている。

運行サービスに対する満足度は、全体的に高い評価を得ている。

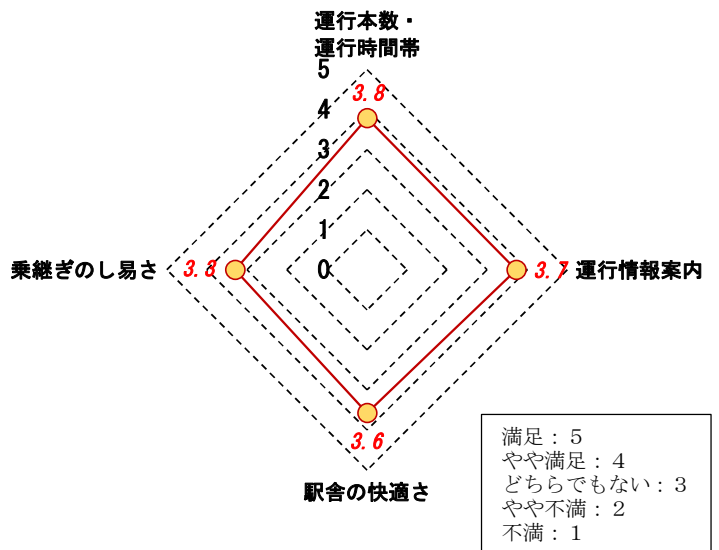
■主な利用鉄道駅



■利用目的（複数回答可）



■運行サービスに対する満足度



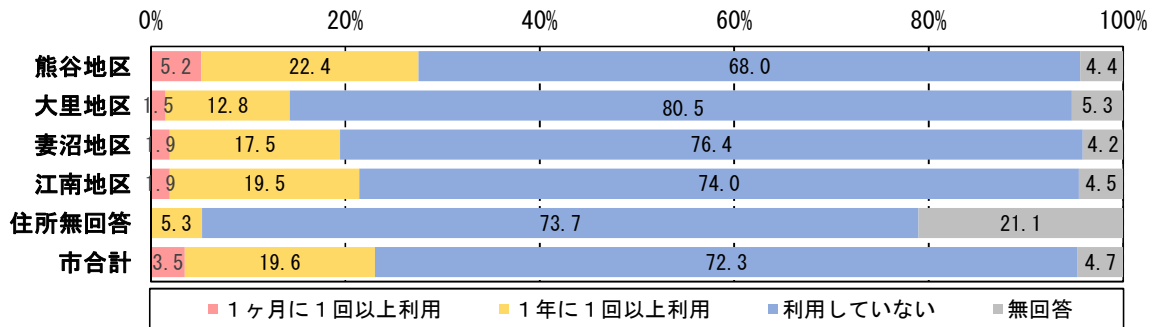
## (6) タクシーの利用状況等

タクシーの利用頻度としては、3.5%の人が「1ヶ月に1回以上利用」、19.6%の人が「1年に1回以上利用」という回答となっている。

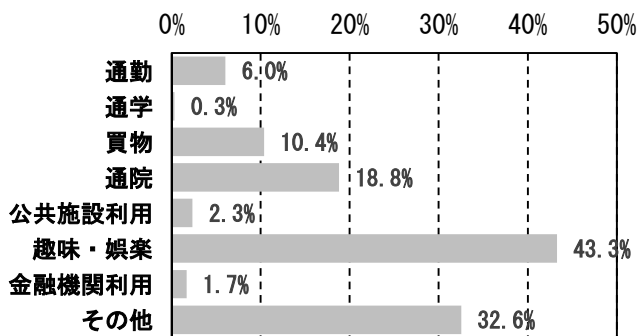
利用目的としては、「趣味・娯楽（43.3%）」、「通院（18.8%）」目的での利用が多くなっている。

運行サービスに対する満足度として、「車両の乗り心地・乗りやすさ」と「利用のし易さ（電話での呼び出し等）」で高い評価を得ているものの、「運賃」と「料金・サービス等の運行情報案内」で評価が低くなっている。

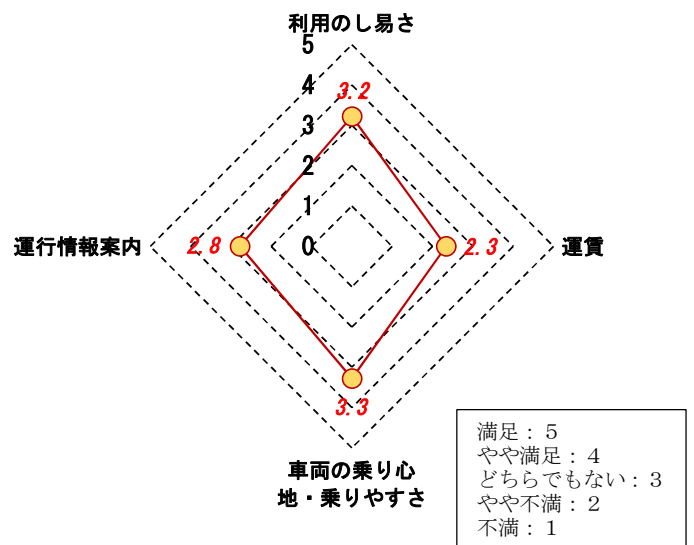
### ■タクシーの利用頻度



### ■利用目的（複数回答可）



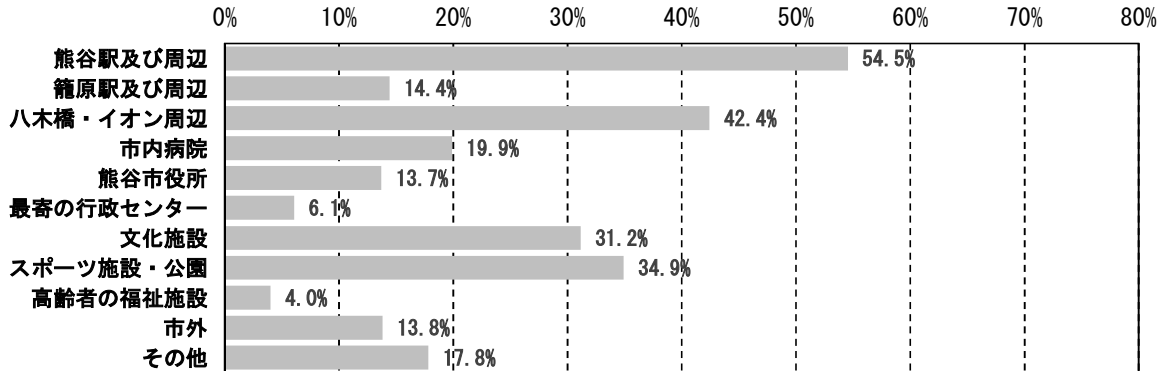
### ■運行サービスに対する満足度



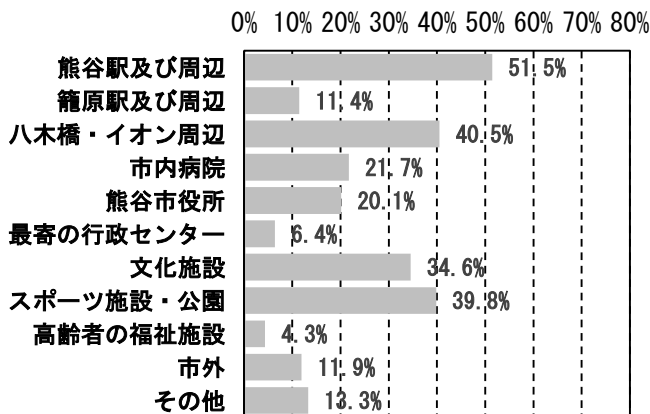
(7) 公共交通の利用意向

バス等を利用して行きたい場所としては、「熊谷駅及び周辺」、「八木橋・イオン周辺」、「スポーツ施設・公園」、「文化施設」及び「市内病院」の順で多くなっている。

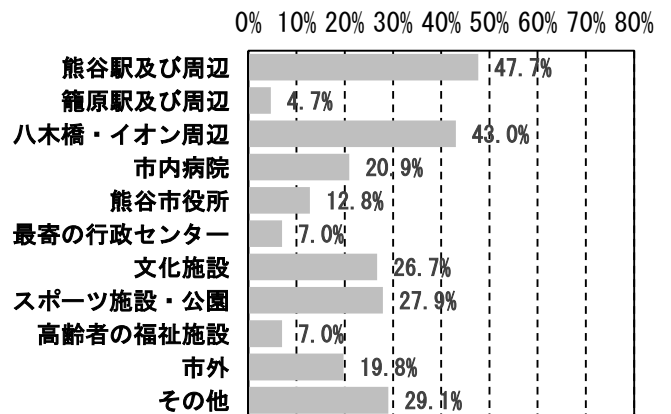
■バス等を利用して行きたい場所（市合計、複数回答可）



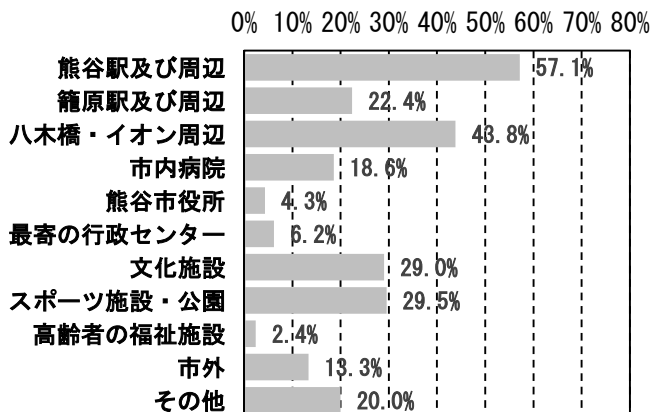
【熊谷地区】



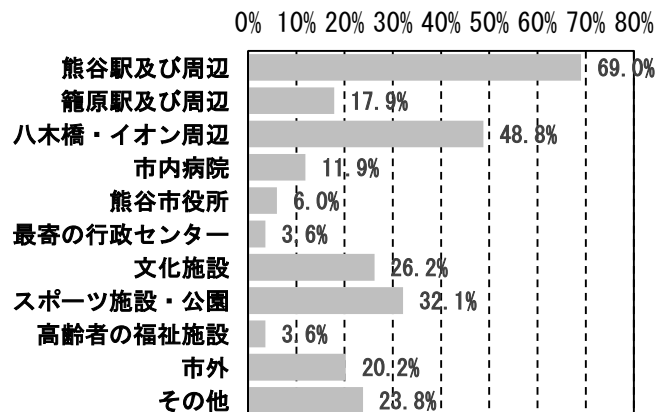
【大里地区】



【妻沼地区】



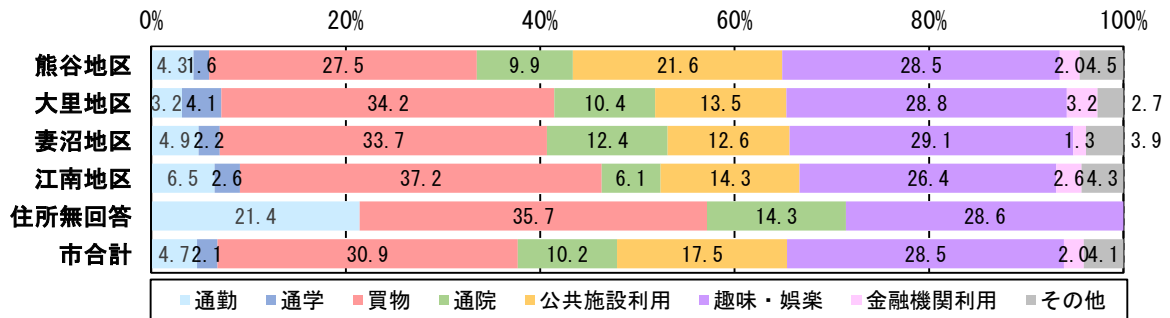
【江南地区】



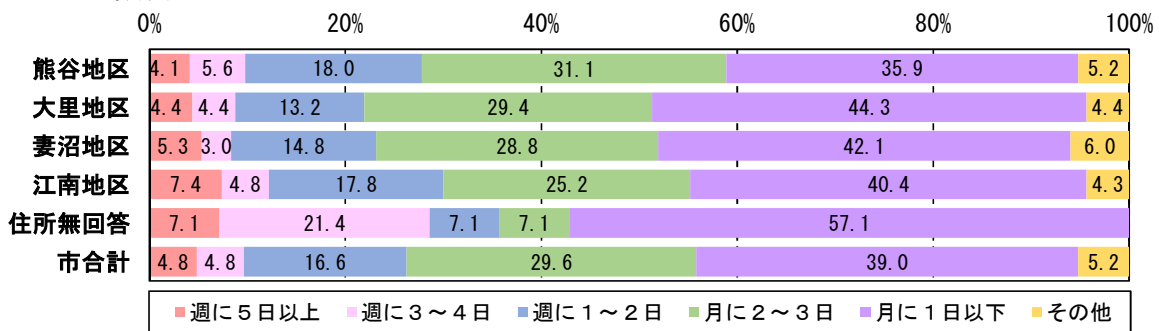
利用目的としては、「買物（30.9%）」、「趣味・娯楽（28.5%）」、「公共施設利用（17.5%）」が多く、利用頻度は利用目的に反映して、「月に1日以下（39.0%）」、「月に2～3日（29.6%）」が多くなっている。

利用時間帯は、「午前（9～11時台）（54.4%）」、「午後（12～15時台）（23.5%）」が多くなっている。

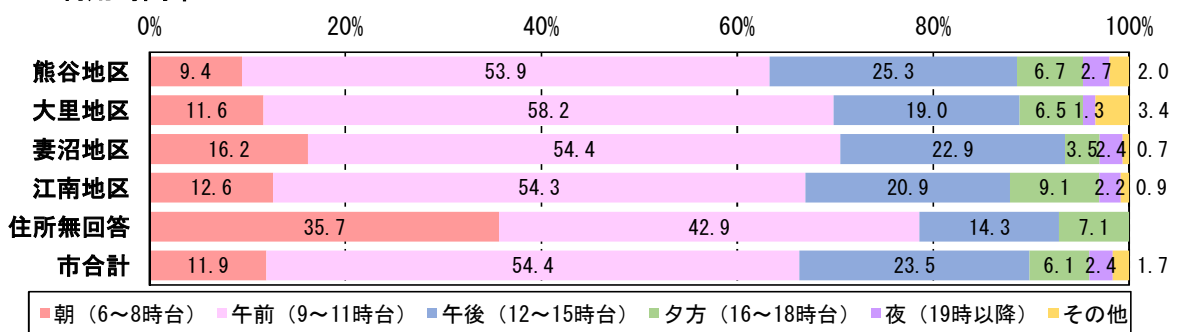
■利用目的



■利用頻度



■利用時間帯



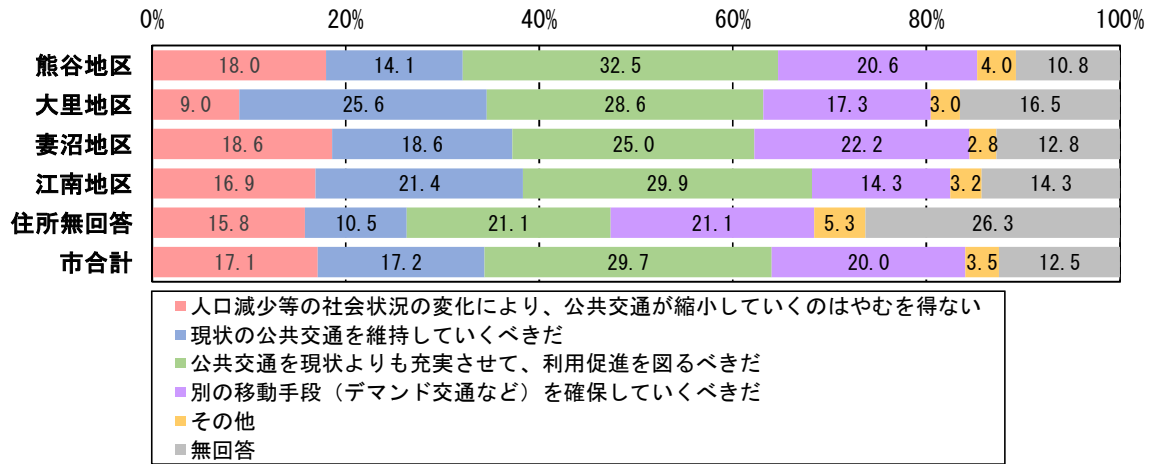
(8) 公共交通の維持・確保意向

公共交通の取組の方向性としては、「公共交通を現状よりも充実させて、利用促進を図るべきだ」と回答した人が29.7%と多く、次いで「別の移動手段（デマンド交通など）を確保していくべきだ（20.0%）」となっている。

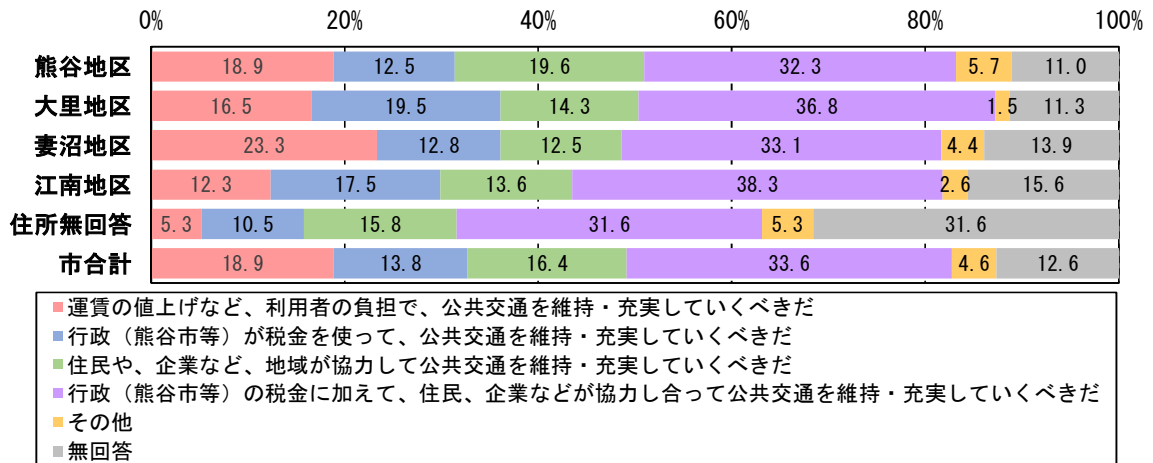
公共交通を維持・充実していくための方法は、「行政（熊谷市等）の税金に加えて、住民、企業などが協力し合って公共交通を維持・充実していくべきだ」と回答した人が33.6%と多くなっている。

公共交通の利用促進を図るための効果的な取組は、「民間の路線バスやゆうゆうバス等の運行ルートや時刻表、乗り方案内等を掲載した公共交通マップの作成・配布（46.1%）」、「観光施設や商業施設等と連携した公共交通割引チケット等の発行（25.5%）」、「パソコン・スマートフォン等への時刻表、乗継情報等の提供（25.2%）」の順で多くなっている。

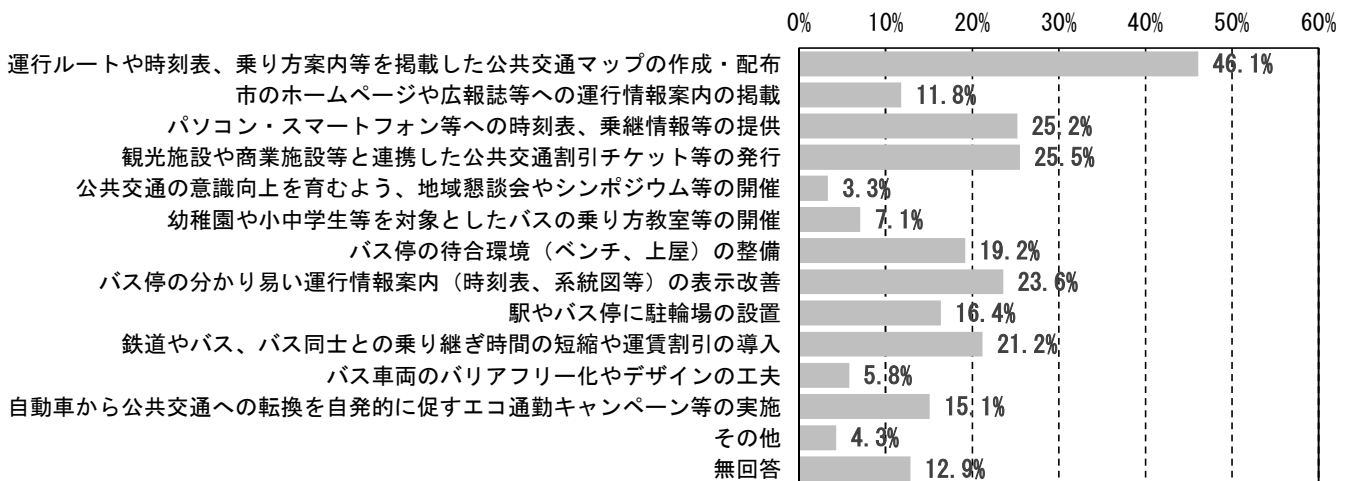
### ■公共交通の取組の方向性



### ■公共交通を維持・充実していくための方法



### ■公共交通の利用促進を図るための効果的な取組（複数回答可）



## 2-2 ゆうゆうバス利用者アンケート調査

ゆうゆうバス利用者アンケート調査は、ゆうゆうバスの利用状況、運行サービスに対する満足度、乗り継ぎの有無と可能性、ゆうゆうバスの利用をより一層促進するために必要なサービスと支払い運賃可能額及び秩父鉄道新駅まで延伸した場合の利用意向（さくら号、グライダー号・ムサシトミヨ号のみ）を把握し、ゆうゆうバス見直しに当たっての基礎資料として活用するために実施した。

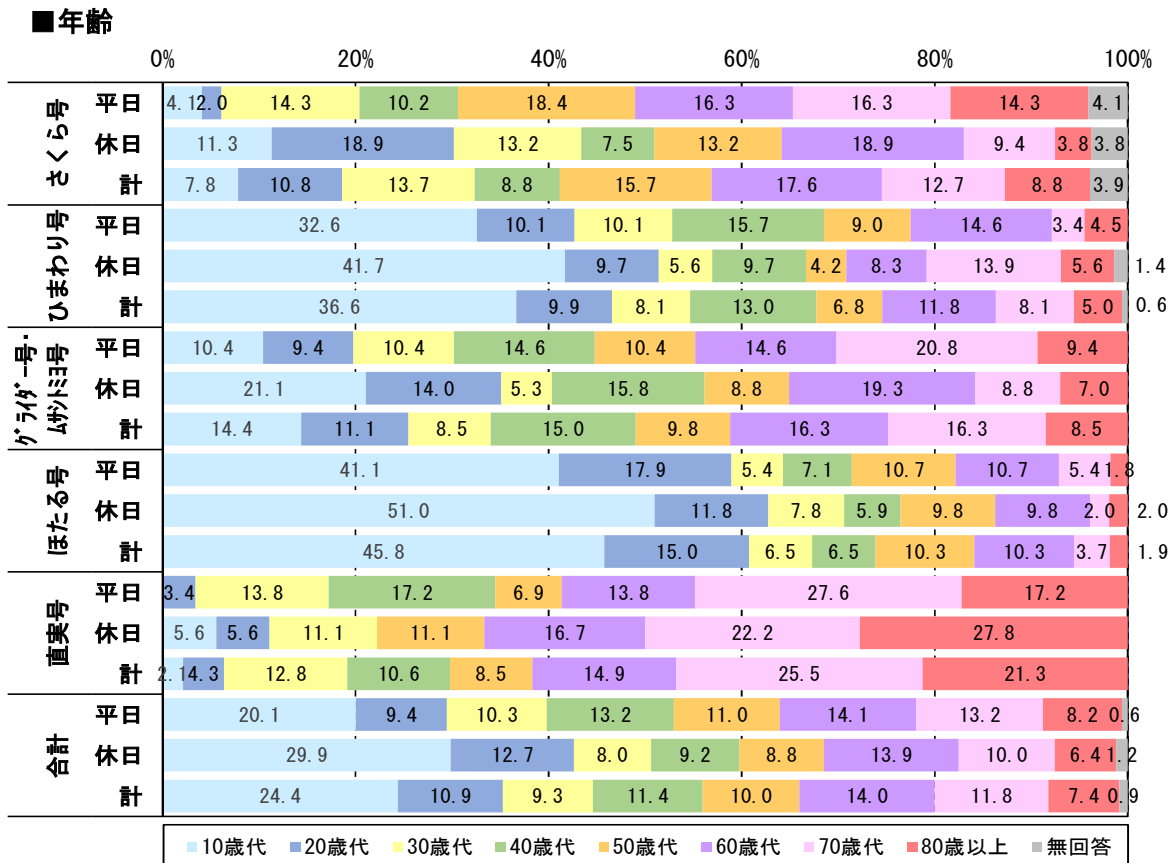
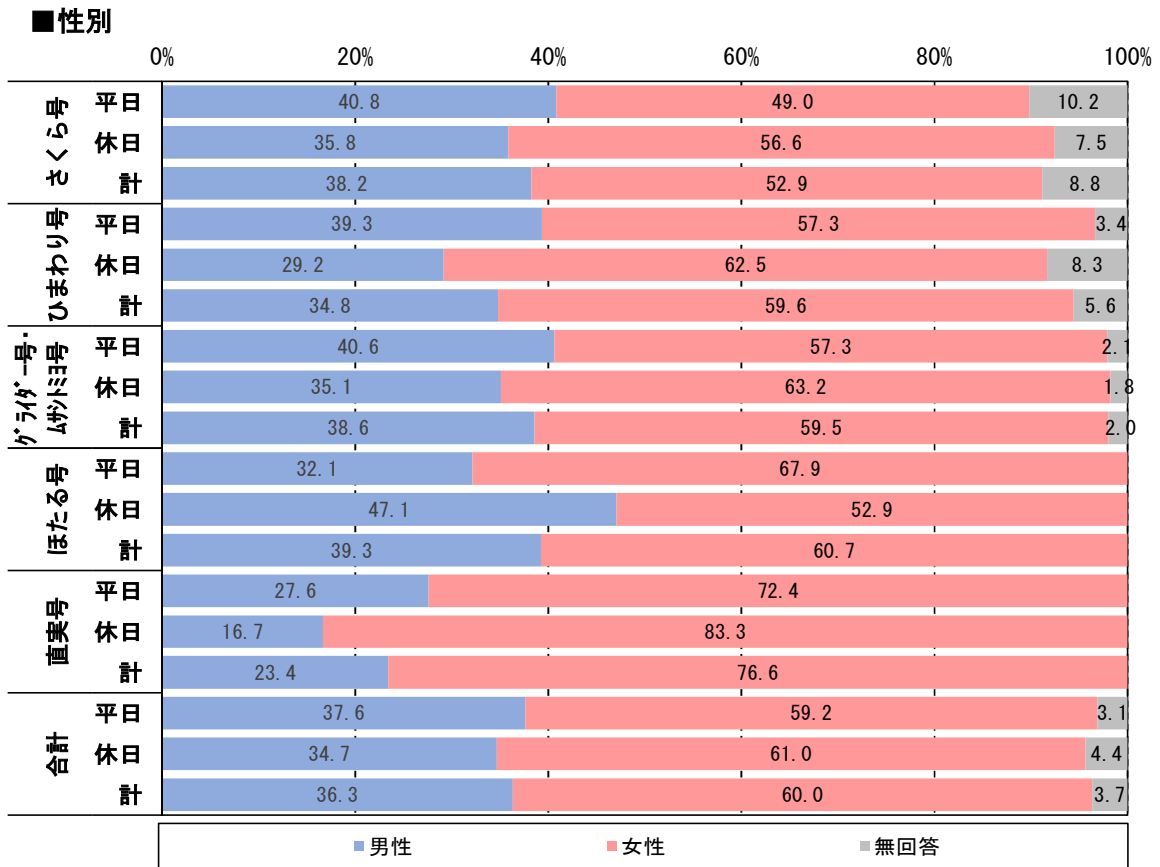
<b>調査対象者</b>	ゆうゆうバス利用者																														
<b>調査方法</b>	調査員による直接ヒアリング+手渡し配布・郵送回収																														
<b>調査日</b>	平日：平成27年9月28日（月）、休日：平成27年9月27日（日）																														
<b>調査項目</b>	①回答者の属性（性別、年齢） ②ゆうゆうバスの利用状況（利用目的、利用頻度） ③運行サービスに対する満足度（運行本数、運行時間帯、行き先、運賃、運行時間の定時性、バス停の待合空間、自宅からバス停までの距離、時刻表・路線図等の運行情報案内、他のバスや鉄道との乗り継ぎのし易さ、全般のサービス） ④乗り継ぎの有無と、運行サービスが向上する場合の乗り継ぎ可能性 ⑤ゆうゆうバスの利用をより一層高めるために必要なサービスと支払い運賃可能額 ⑥秩父鉄道新駅まで延伸した場合の利用意向（さくら号、グライダー号・ムサシトミヨ号のみ）																														
<b>回収状況</b>	全体 570 票（平日 319 票、休日 251 票） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平日</th> <th>休日</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>さくら号</td> <td>49 票</td> <td>53 票</td> <td>102 票</td> </tr> <tr> <td>ひまわり号</td> <td>89 票</td> <td>72 票</td> <td>161 票</td> </tr> <tr> <td>グライダー号・ムサシトミヨ号</td> <td>96 票</td> <td>57 票</td> <td>153 票</td> </tr> <tr> <td>ほたる号</td> <td>56 票</td> <td>51 票</td> <td>107 票</td> </tr> <tr> <td>直実号</td> <td>29 票</td> <td>18 票</td> <td>47 票</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>319 票</td> <td>251 票</td> <td>570 票</td> </tr> </tbody> </table>				平日	休日	合計	さくら号	49 票	53 票	102 票	ひまわり号	89 票	72 票	161 票	グライダー号・ムサシトミヨ号	96 票	57 票	153 票	ほたる号	56 票	51 票	107 票	直実号	29 票	18 票	47 票	合計	319 票	251 票	570 票
	平日	休日	合計																												
さくら号	49 票	53 票	102 票																												
ひまわり号	89 票	72 票	161 票																												
グライダー号・ムサシトミヨ号	96 票	57 票	153 票																												
ほたる号	56 票	51 票	107 票																												
直実号	29 票	18 票	47 票																												
合計	319 票	251 票	570 票																												



(1) 回答者の属性

性別については、女性の回答者が60.0%と男性よりも多い。

年齢については、ひまわり号とほたる号で10歳代の人が、直実号で60歳以上の人が多かった。さくら号とグライダー号・ムサシトミヨ号は各世代から万遍なく回答があった。



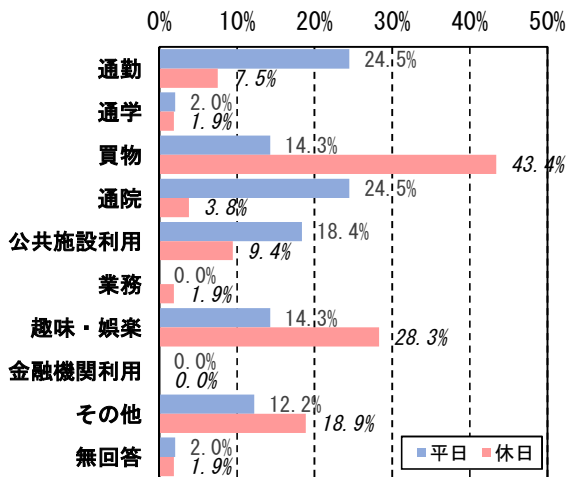
## (2) 利用状況

平日の利用目的については、さくら号とグライダー号・ムサントミヨ号は通勤と通院、ひまわり号とほたる号は通勤と通学、直実号は通院と公共施設利用が多くなっており、休日は、各系統とも買物が最も多くなっている。

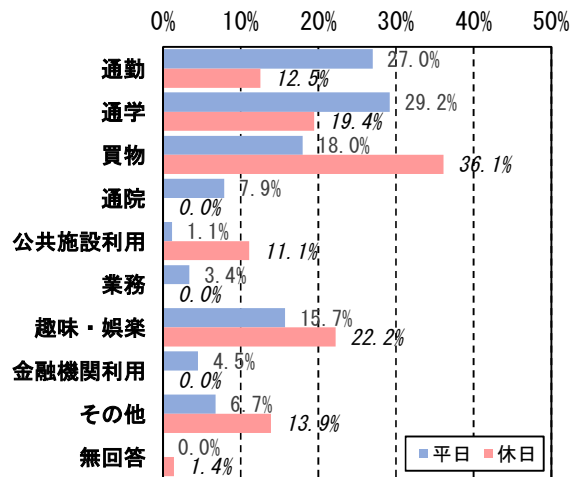
利用頻度は、通勤、通学での利用割合が多いひまわり号、グライダー号・ムサントミヨ号及びほたる号で週5日以上の利用が多くなっている。

### ■利用目的（複数回答可）

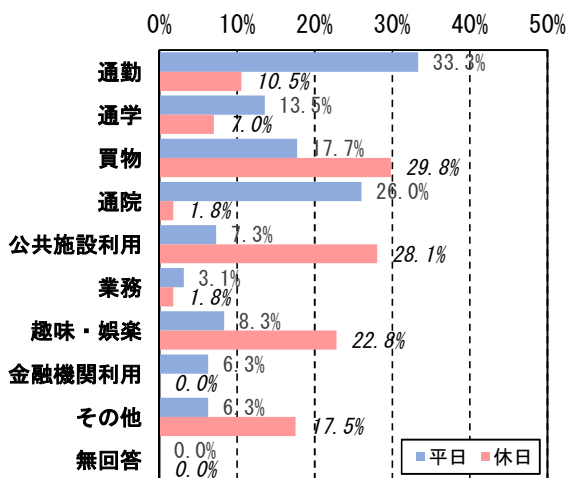
【さくら号】



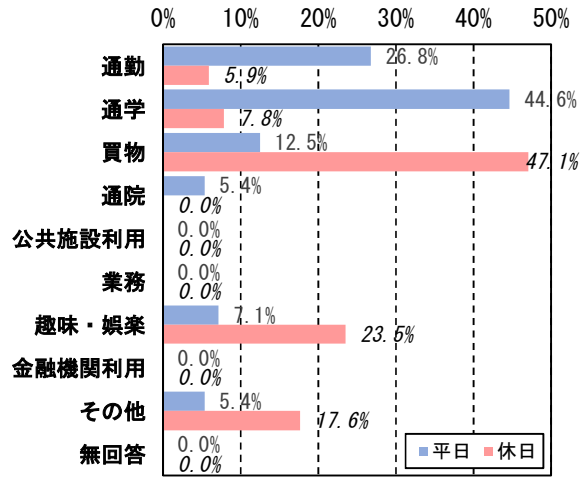
【ひまわり号】



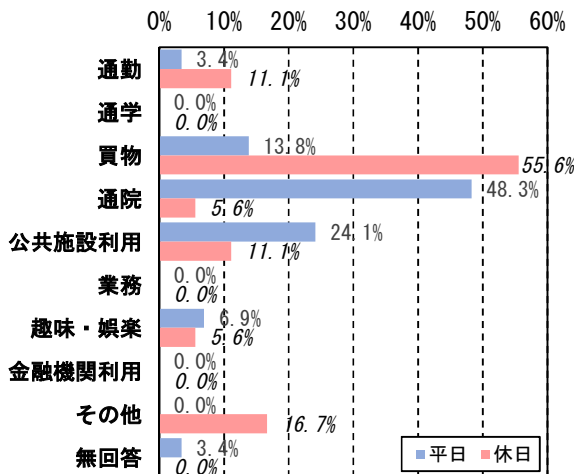
【グライダー号・ムサントミヨ号】



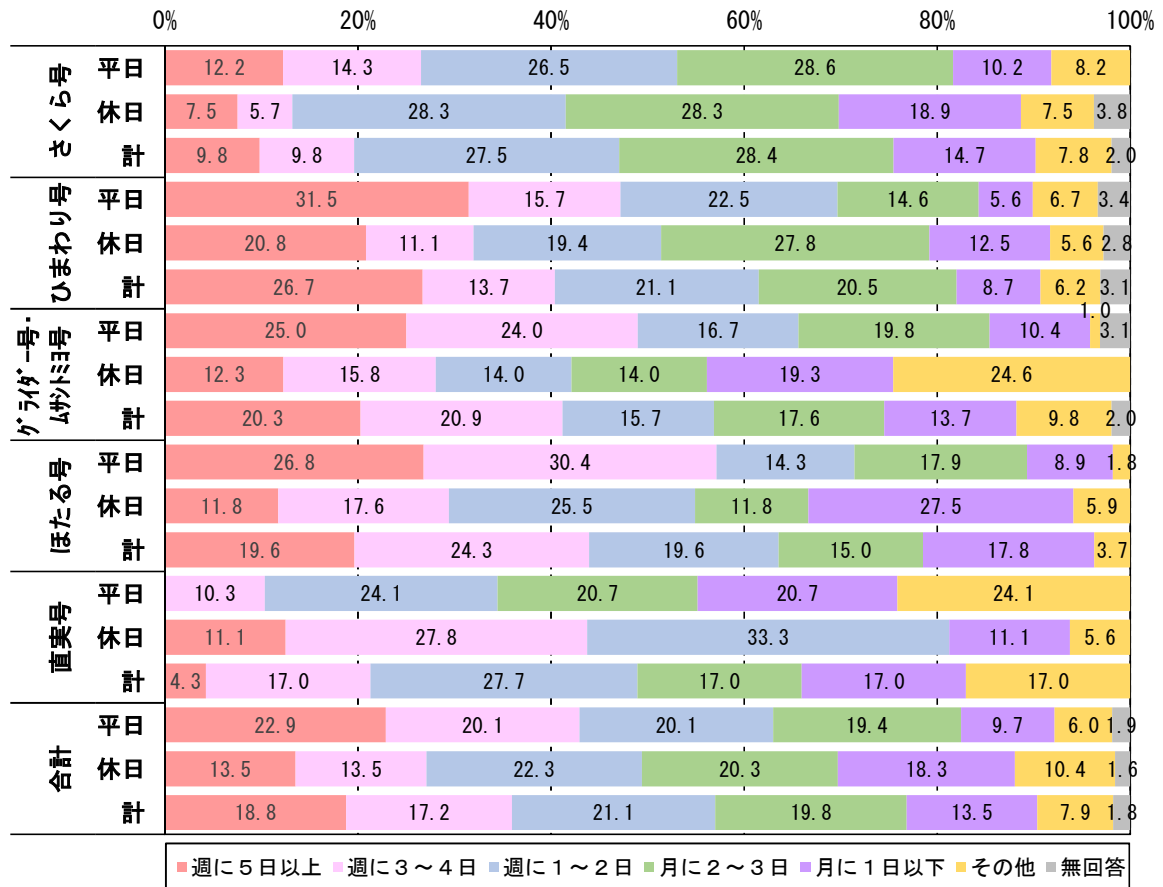
【ほたる号】



【直実号】



■利用頻度

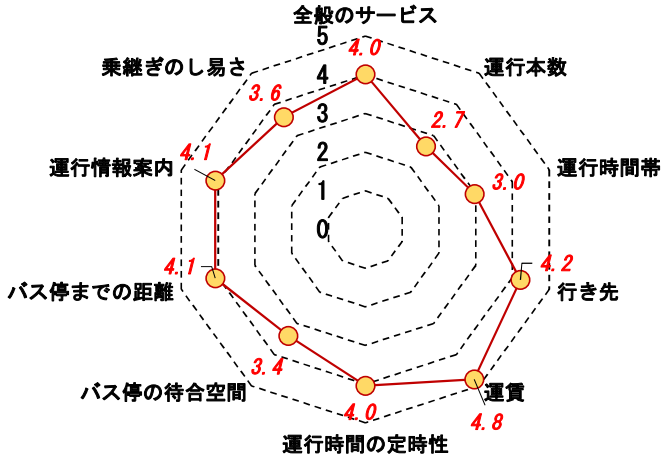


### (3) 運行サービスに対する満足度

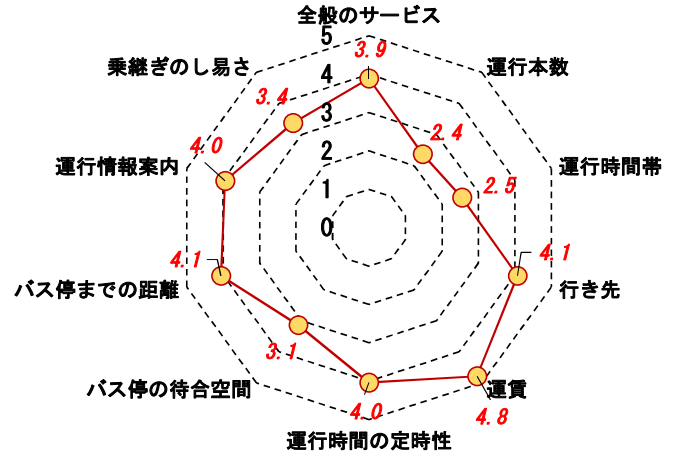
ゆうゆうバス全体としては、特に運賃、行き先、運行情報案内及びバス停までの距離で高い評価を得ているものの、運行本数で評価が低くなっている。

#### ■運行サービスに対する満足度

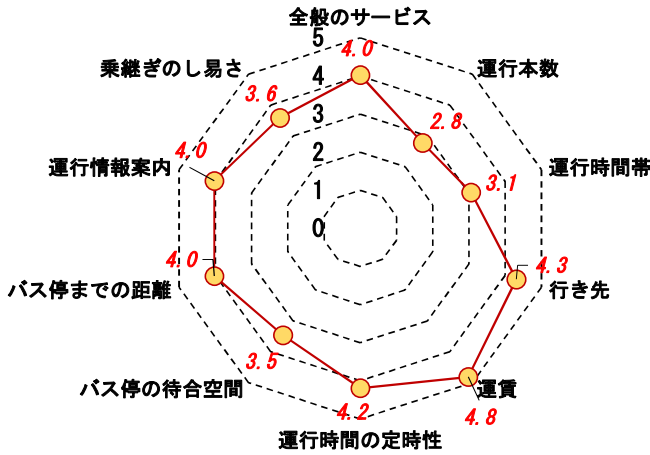
【ゆうゆうバス全体】



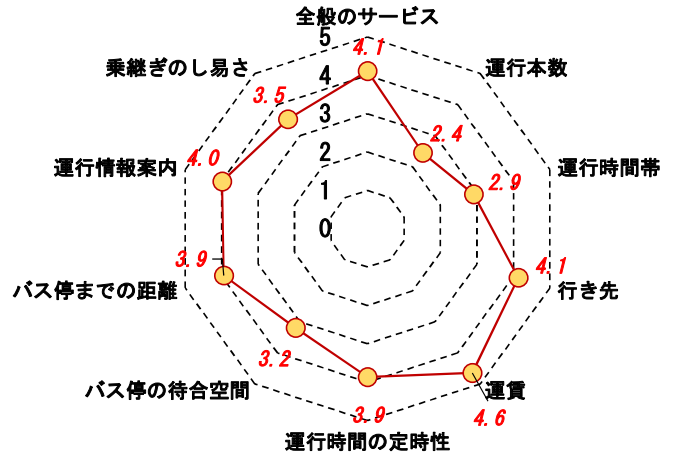
【さくら号】



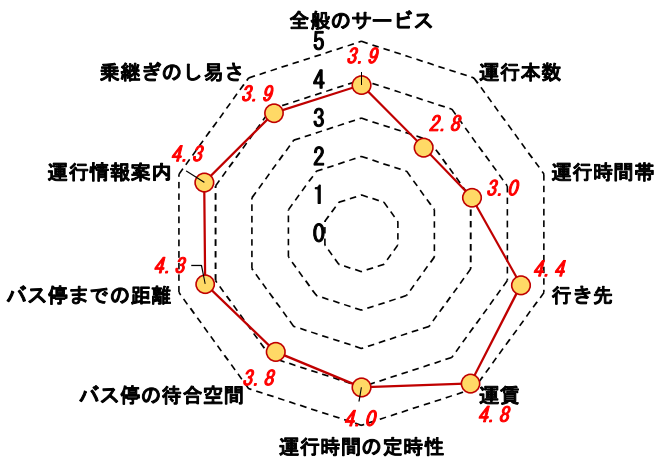
【ひまわり号】



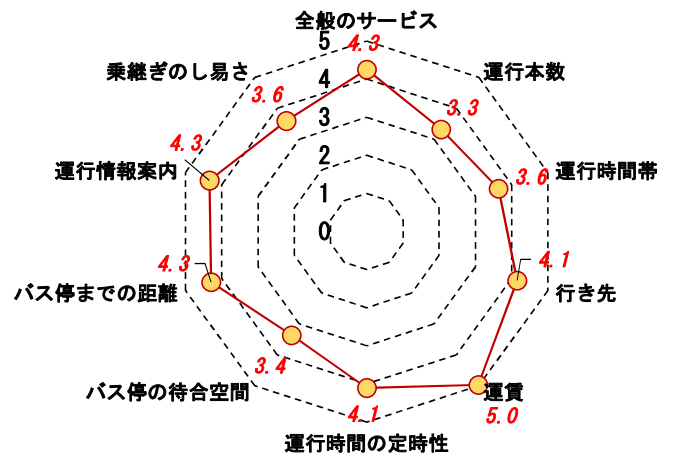
【グライダー号・ムサシトミヨ号】



【ほたる号】

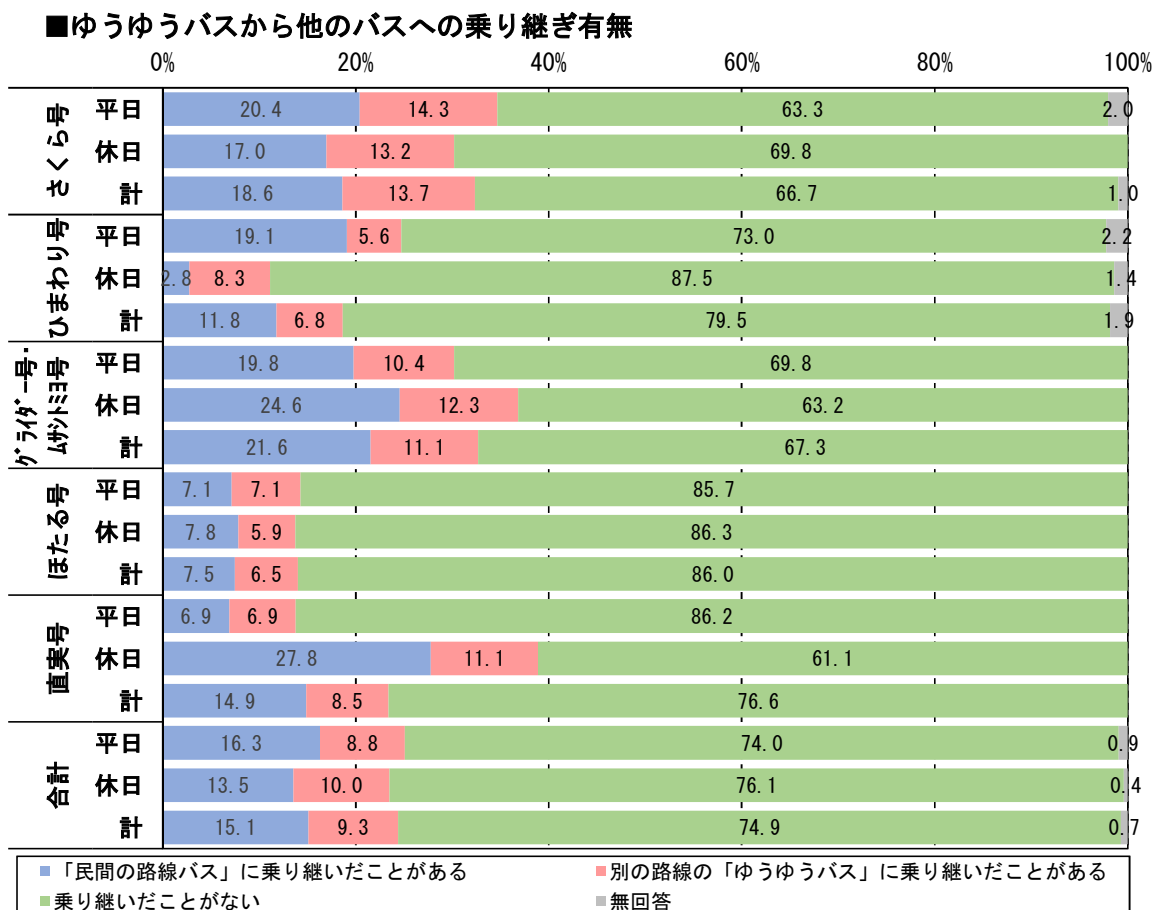


【直実号】



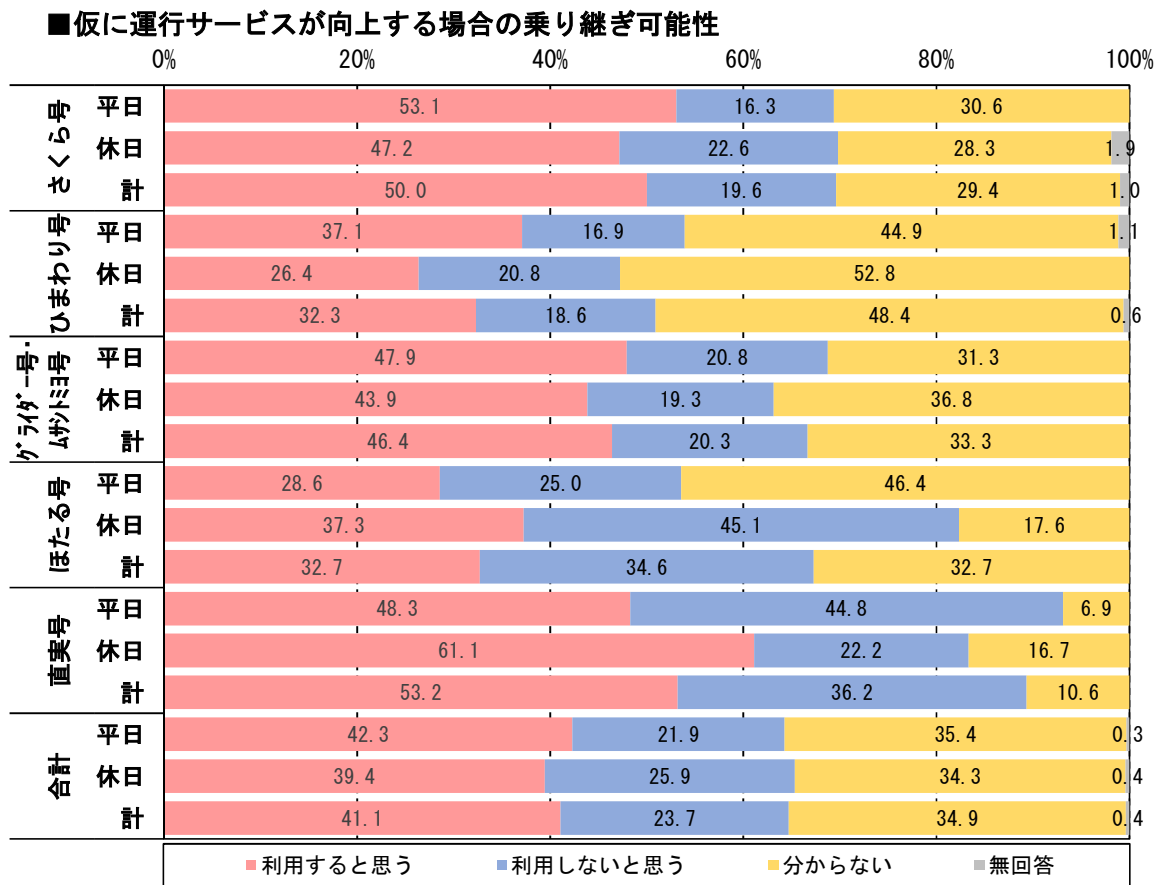
#### (4) 他のバスへの乗り継ぎの有無

ゆうゆうバスから他のバスへの乗り継ぎ有無については、「乗り継いだことがない」と回答した人が74.9%と多く、乗り継いだことがあると回答した人は24.4%となっており、系統別に見ると、乗り継いだことがあると回答した人はグライダー号・ムサントミヨ号で32.7%、さくら号で32.3%と多くなっている。



### (5) 乗り継ぎ可能性

仮に運行サービスが向上する場合の乗り継ぎ可能性については、「利用すると思う」と回答した人が41.1%と多く、系統別に見ると、直実号が53.2%、さくら号が50.0%と多くなっている。

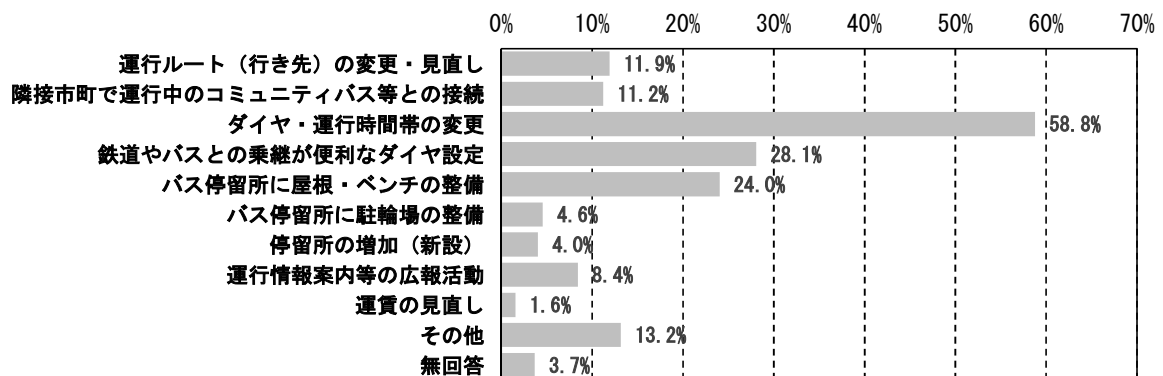


### (6) 必要なサービスと支払い運賃可能額

ゆうゆうバスの利用をより一層高めるために必要なサービスについては、「ダイヤ・運行時間帯の変更 (58.8%)」が顕著に多く、次に「鉄道やバスとの乗り継ぎが便利なダイヤ設定 (28.1%)」、「バス停留所に屋根・ベンチの整備 (24.0%)」の順で多くなっている。

サービスが向上した場合の支払い可能な運賃については、現行と同様に「100円」と回答した人が46.7%と最も多く、次に「200円 (26.7%)」となっている。

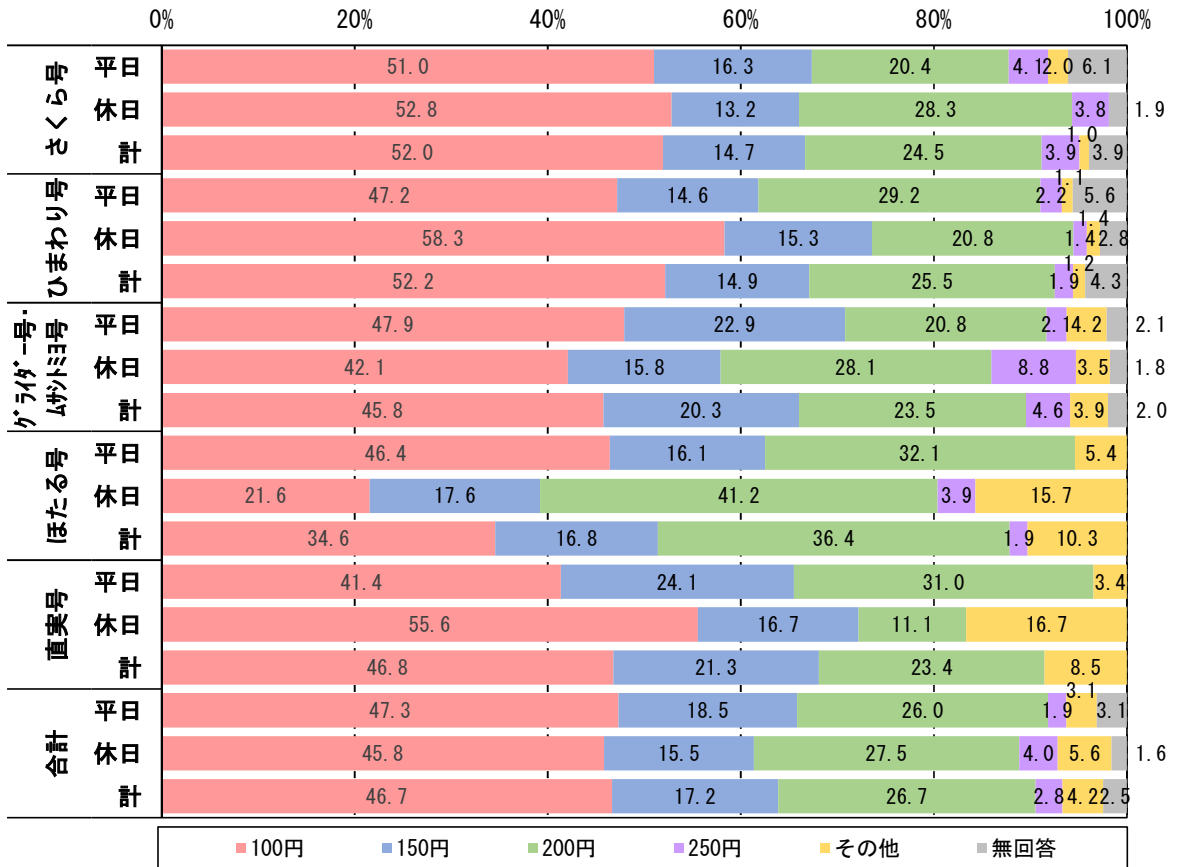
**■より一層高めるために必要なサービス【ゆうゆうバス全体、(複数回答可)】**



※希望する経由地・市外：東松山市(駅) 11件、吹上駅6件、深谷駅2件

その他：運行本数の増便25件、今のままで良い8件、ICカードの導入5件

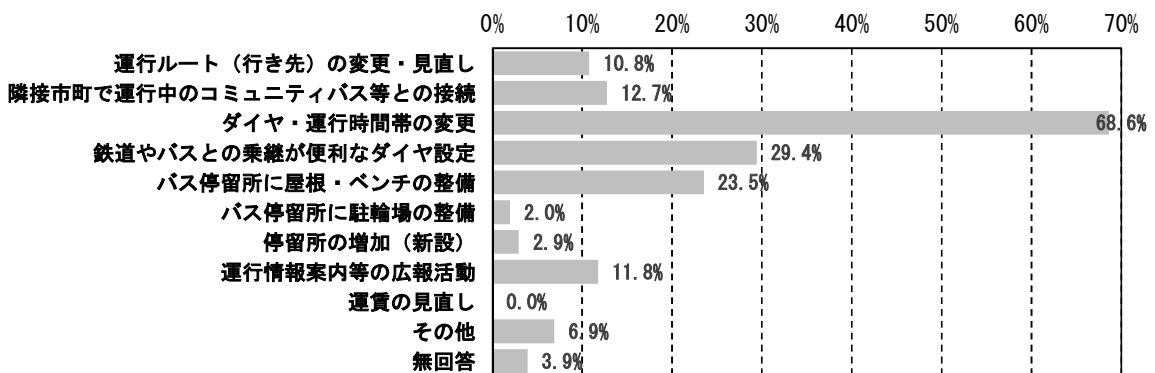
■サービスが向上した場合の支払い可能な運賃



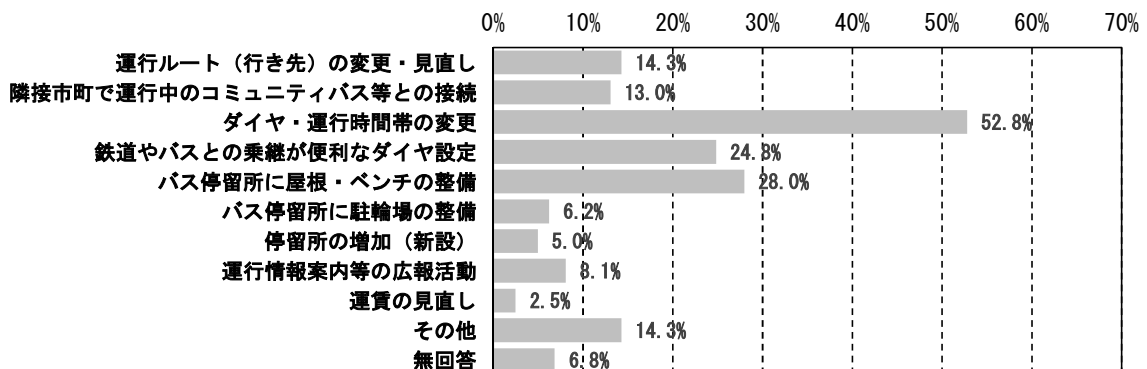
その他：「ゆうゆうバス 70」所持者のため関係ない 8 件、300 円 5 件

■系統別・より一層高めるために必要なサービス（複数回答可）

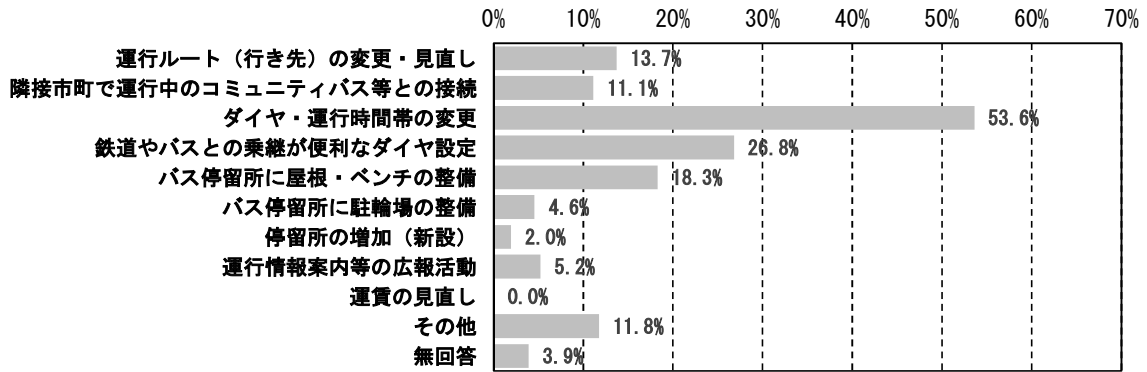
【さくら号】



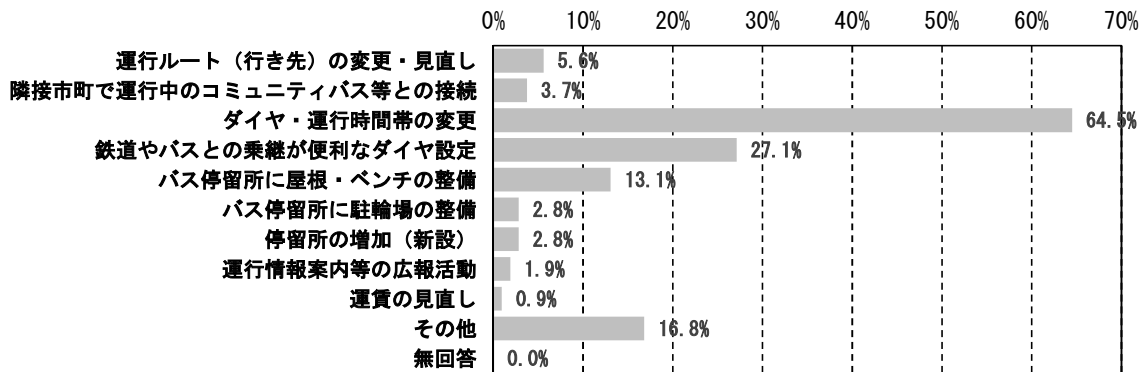
【ひまわり号】



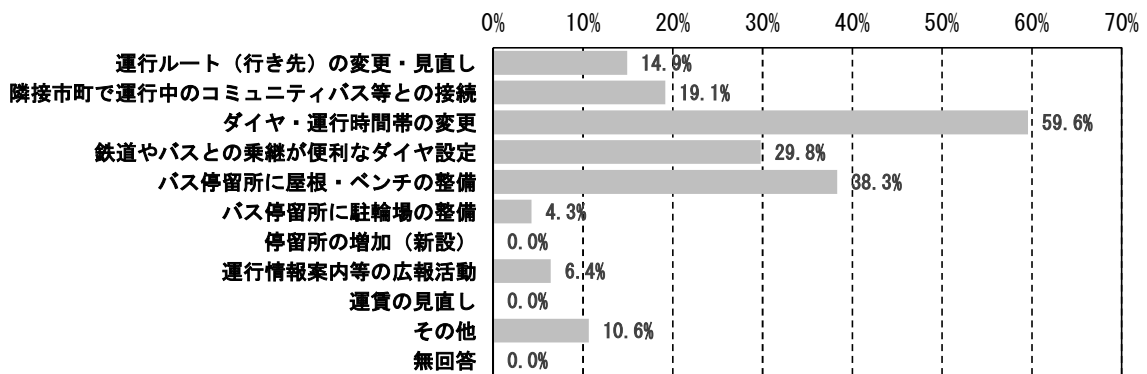
【グライダー号・ムサシトミヨ号】



【ほたる号】



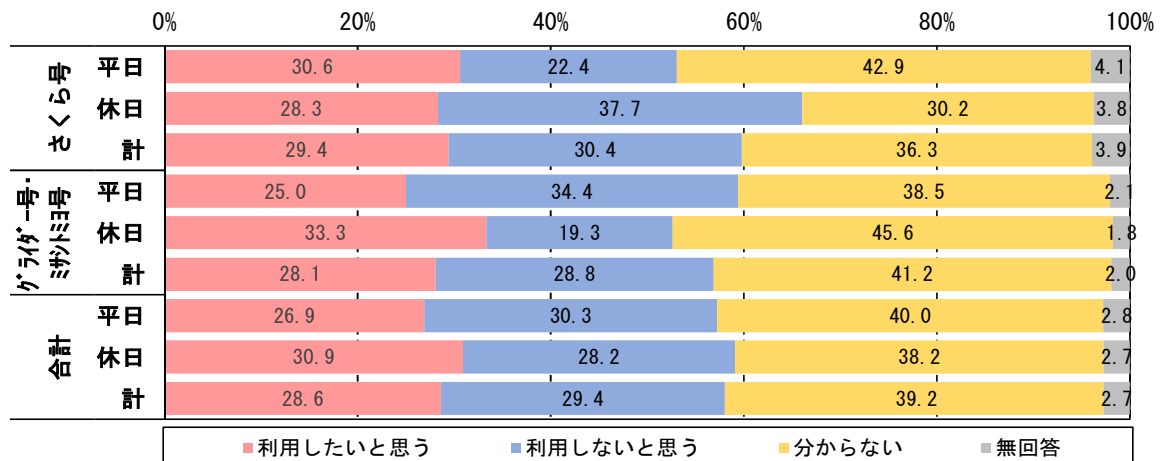
【直実号】



(6) 秩父鉄道新駅まで延伸した場合の利用意向（さくら号、グライダー号・ムサシトミヨ号）

秩父鉄道新駅まで延伸した場合の利用意向は、「利用したいと思う」と回答した人が28.6%、「利用しないと思う」と回答した人が29.4%と同程度となっている。

■秩父鉄道新駅まで延伸した場合の利用意向





## 2-3 秩父鉄道新駅の利用に関するアンケート調査

秩父鉄道新駅の利用に関するアンケート調査は、秩父鉄道新駅の利用可能性や意向、市内の公共交通の利用状況等を把握し、秩父鉄道の新駅に対する利用可能性や利便性向上を検討するに当たっての基礎資料として活用するために実施した。

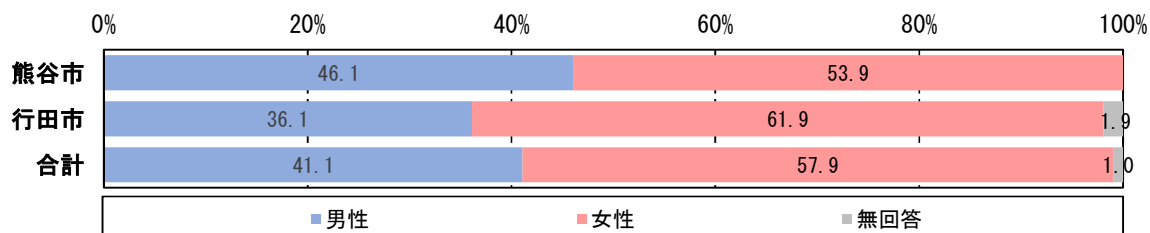
<b>調査対象者</b>	住民基本台帳から無作為抽出した新駅予定地の周辺地域の15歳以上の600人（熊谷市300人、行田市300人）
<b>調査方法</b>	郵送配布、郵送回収
<b>調査日</b>	平成27年10月16日（金）～平成27年10月30日（金）
<b>調査項目</b>	①回答者の属性（性別、年齢、職種、居住地、運転免許証の有無、自由に使える自動車などの保有状況、鉄道を利用する場合の主な鉄道駅、駅までの交通手段） ②秩父鉄道新駅の利用可能性や意向（新駅の利用目的、自宅から新駅までの交通手段、降車又は乗換駅、利用頻度、乗車券の種類、駅前広場及び周辺に必要と思う施設） ③市内の公共交通の利用状況（公共交通の利用有無、利用する公共交通の種類、利用目的、利用頻度、公共交通を利用しない理由）
<b>回収状況</b>	回収票数309票（回収率51.5%） ※熊谷市：154票、行田市：155票

### (1) 回答者の属性

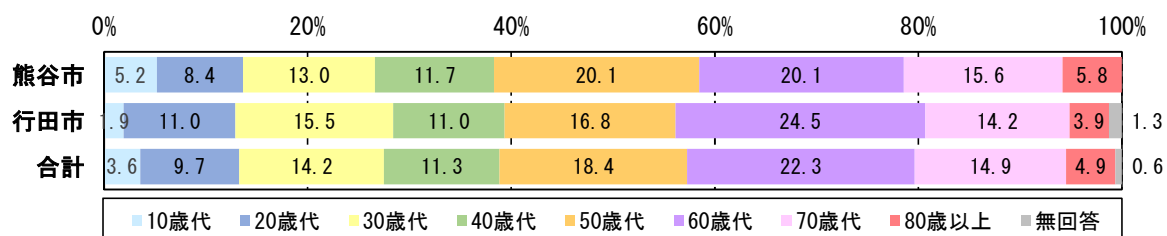
性別については、「女性」の回答者が57.9%と男性よりも多く、年齢は、「60歳代（22.3%）」が最も多く、次いで「50歳代（18.4%）」、「70歳代（14.9%）」となっている。

回答者の職種は、「会社員・公務員（32.0%）」が最も多くなっている。

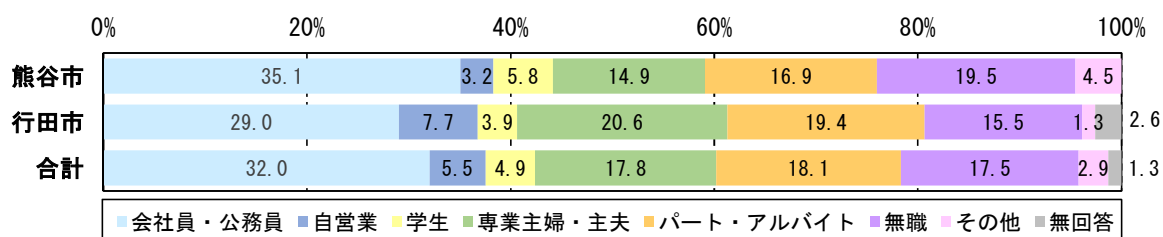
#### ■性別



#### ■年齢



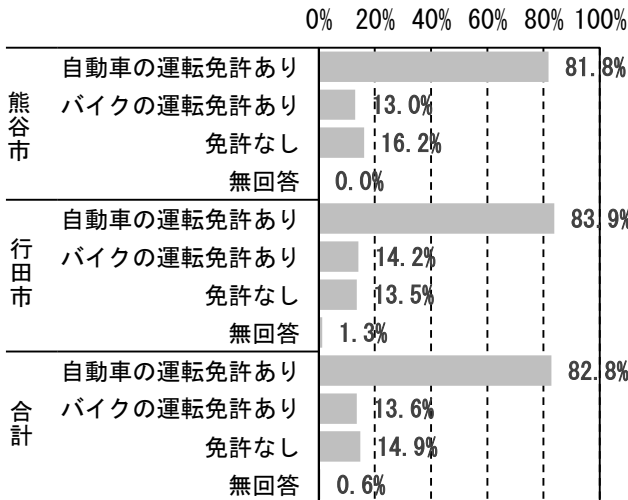
#### ■職種



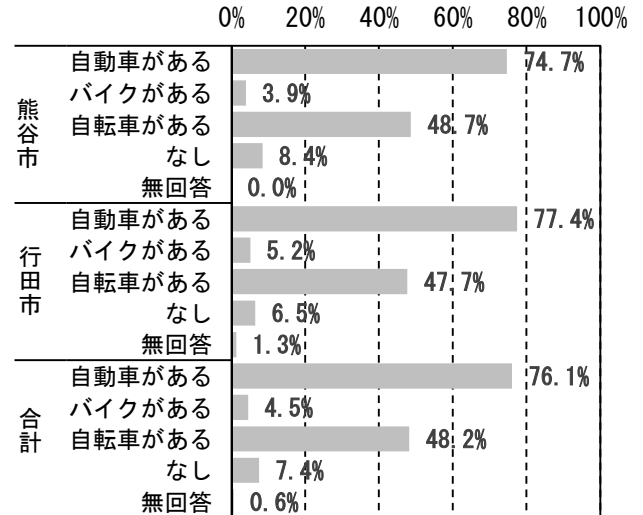
運転免許証の有無を見ると、回答者の約80%の人が自動車運転免許又はバイク運転免許を保有しており、回答者の約14.9%の人はいずれの免許も保有していない。自動車などの保有状況を見ると、自動車、バイク又は自転車のいずれも保有していない人は全回答者の7.4%となっている。

鉄道を利用する場合の主な鉄道駅は、熊谷市では「熊谷駅(77.9%)」、行田市では「行田駅(54.2%)」が多く、駅までの主な交通手段は、全体で39.9%の人が「自家用車を運転」と回答している。

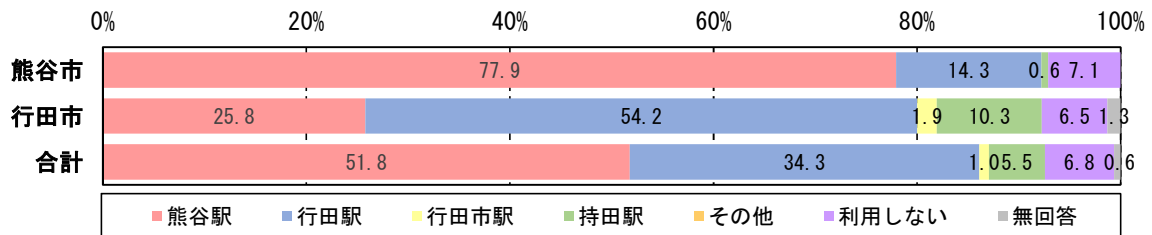
■運転免許証の有無（複数回答可）



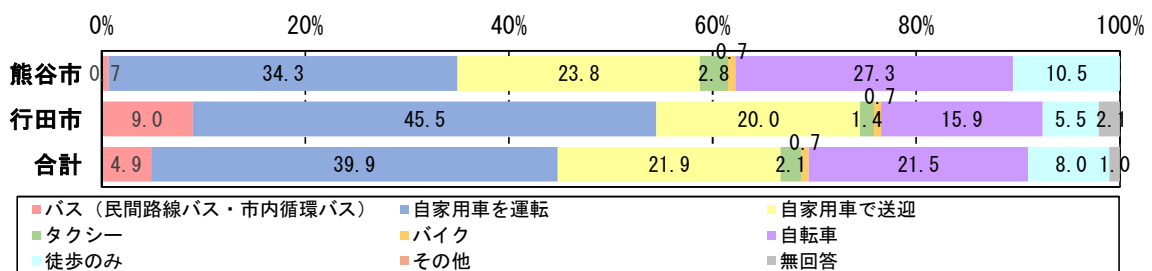
■自動車等の所有状況（複数回答可）



■鉄道を利用する場合の主な鉄道駅



■鉄道駅までの主な利用交通手段



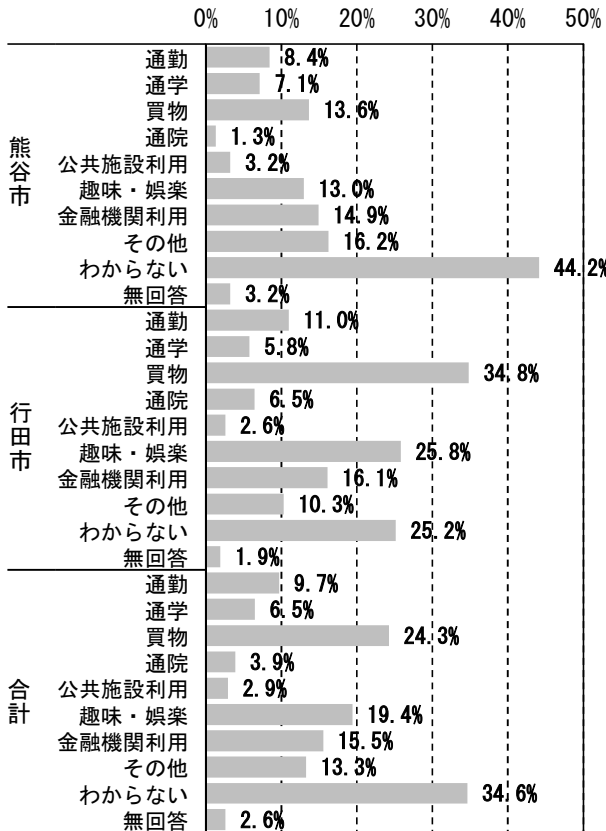
## (2) 秩父鉄道新駅の利用可能性や意向

新駅の利用目的については、「わからない」を除くと「買物 (24.3%)」、「趣味・娯楽 (19.4%)」及び「金融機関利用 (15.5%)」が多く、通勤・通学における現在の利用交通手段は、「JR 高崎線 (50.0%)」、「自家用車を運転 (40.5%)」及び「自転車 (31.0%)」が多くなっている。

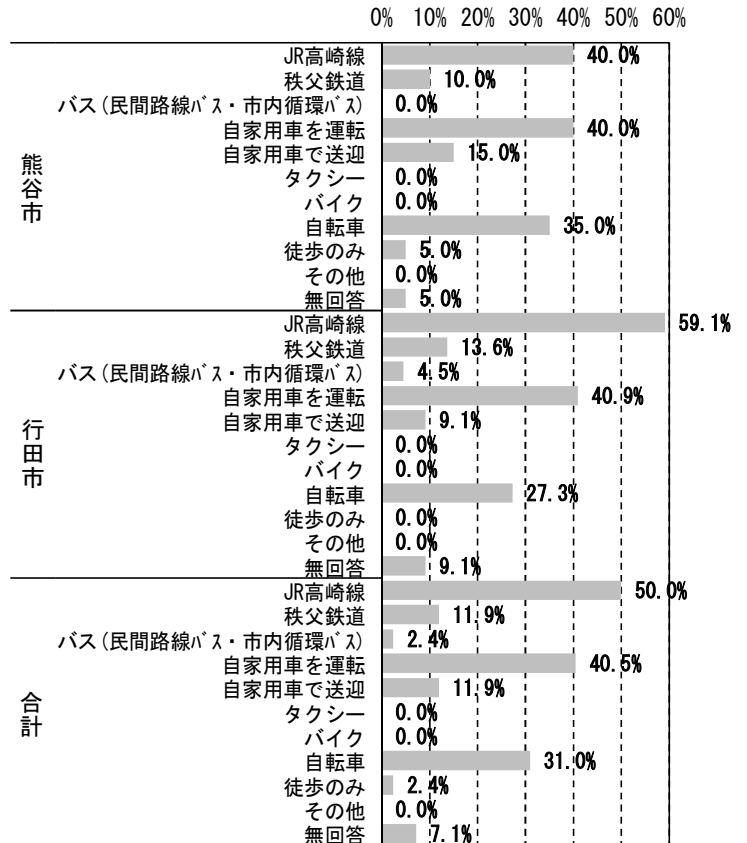
自宅から新駅までの利用交通手段については、「自転車」と回答した人が 37.9%と最も多く、次いで「徒歩のみ (20.1%)」となっている。

新駅乗車後に降車駅又は乗換駅は、「熊谷駅」と回答した人が 61.5%と最も多くなっている。

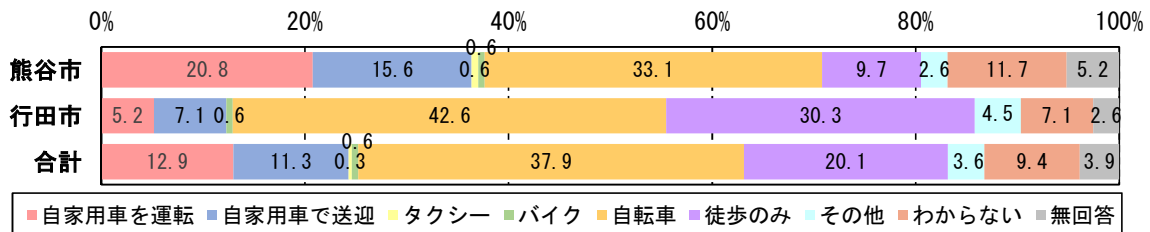
### ■新駅の利用目的 (複数回答可)



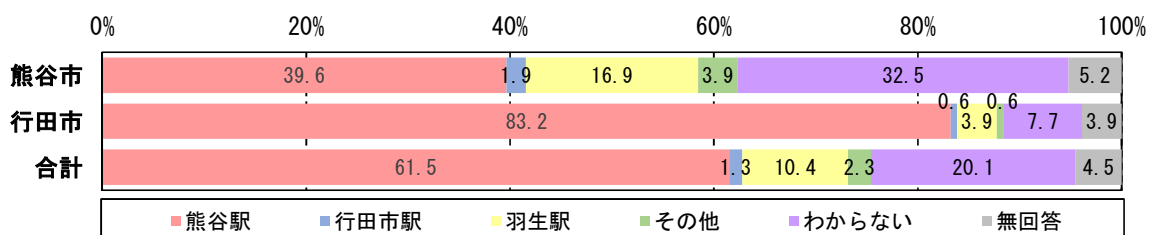
### ■通勤・通学時の現在の利用交通手段 (複数回答可)



### ■自宅から新駅までの利用交通手段



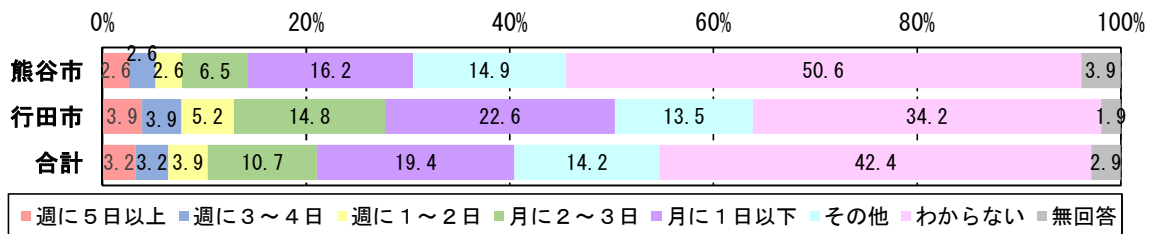
### ■新駅乗車後、降車駅又は乗換駅



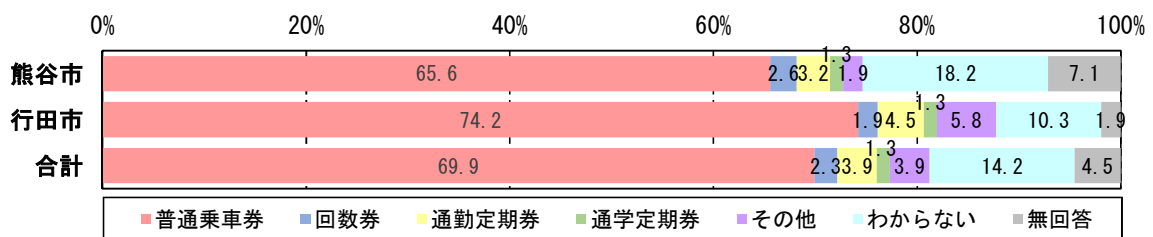
新駅の利用頻度は、「わからない」を除くと、「月に1日以下（19.4%）」が、乗車券の種類は、「普通乗車券（69.9%）」が最も多くなっている。

駅前広場及び周辺に必要と思う施設は、「駐輪場（50.8%）」、「駐車場（32.7%）」及び「送迎車スペース（32.4%）」の順で多くなっている。

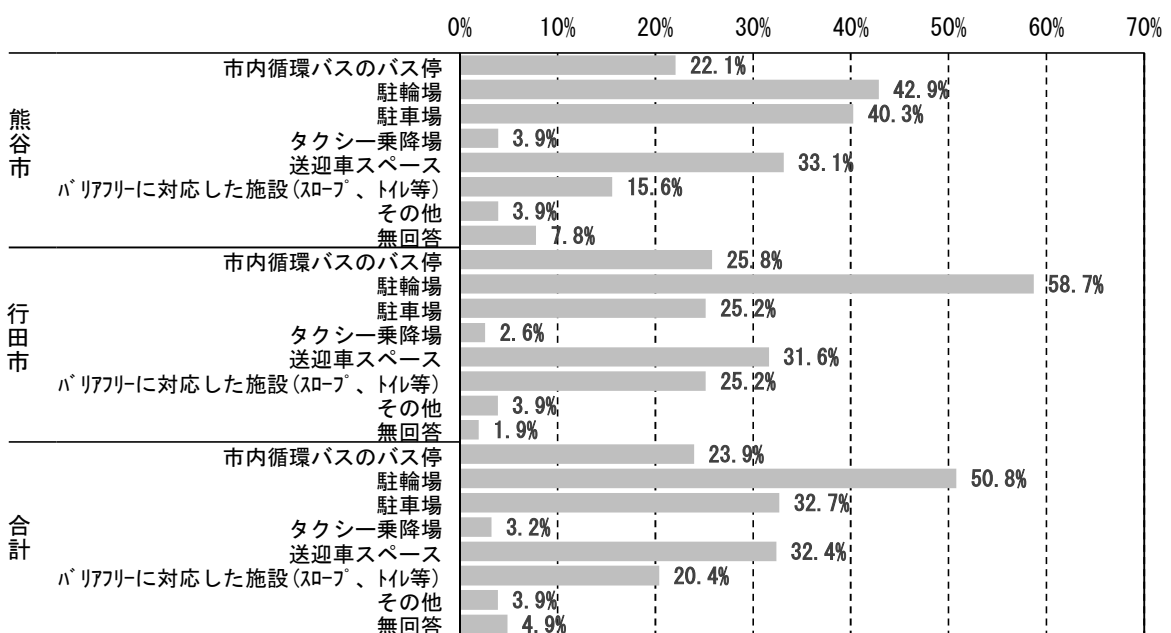
### ■新駅の利用頻度



### ■利用すると思う乗車券の種類



### ■駅前広場及び周辺に必要と思う施設（複数回答可）

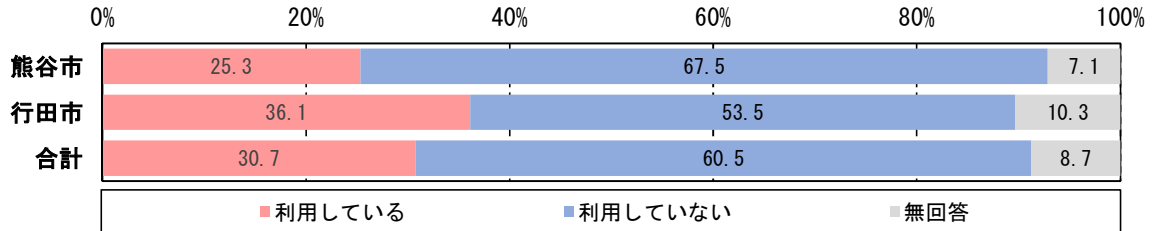


### (3) 市内の公共交通の利用状況

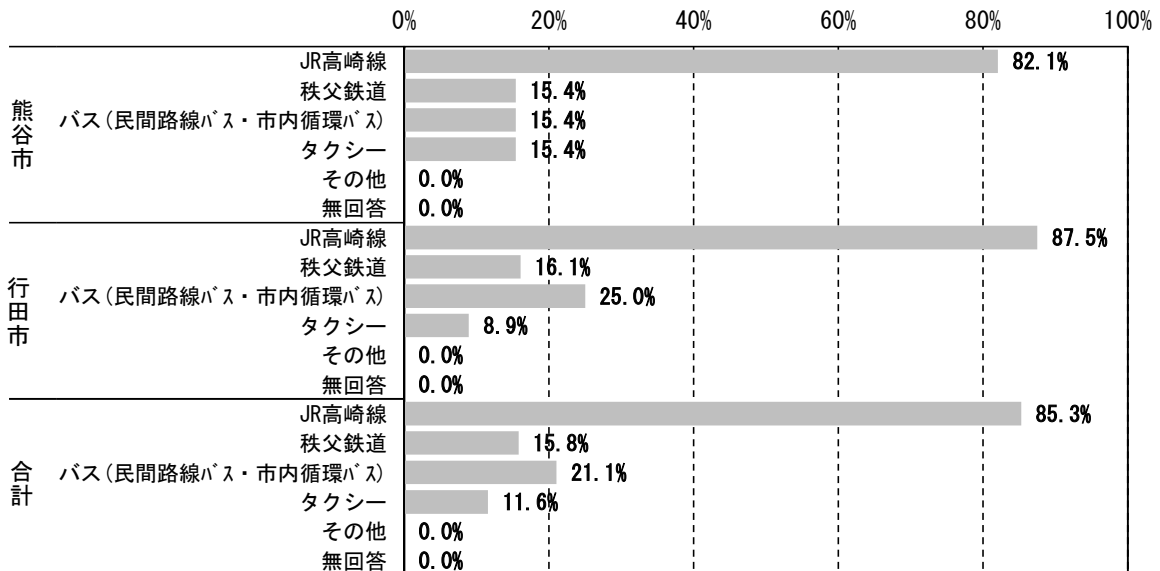
公共交通の利用有無については、「利用している」と回答した人が30.7%で、公共交通の種類は熊谷市、行田市ともに「JR高崎線」と回答した人が8割を超え多くなっている。

公共交通の利用目的は、熊谷市、行田市ともに「趣味・娯楽」、「買物」及び「通勤」の順で多くなっている。

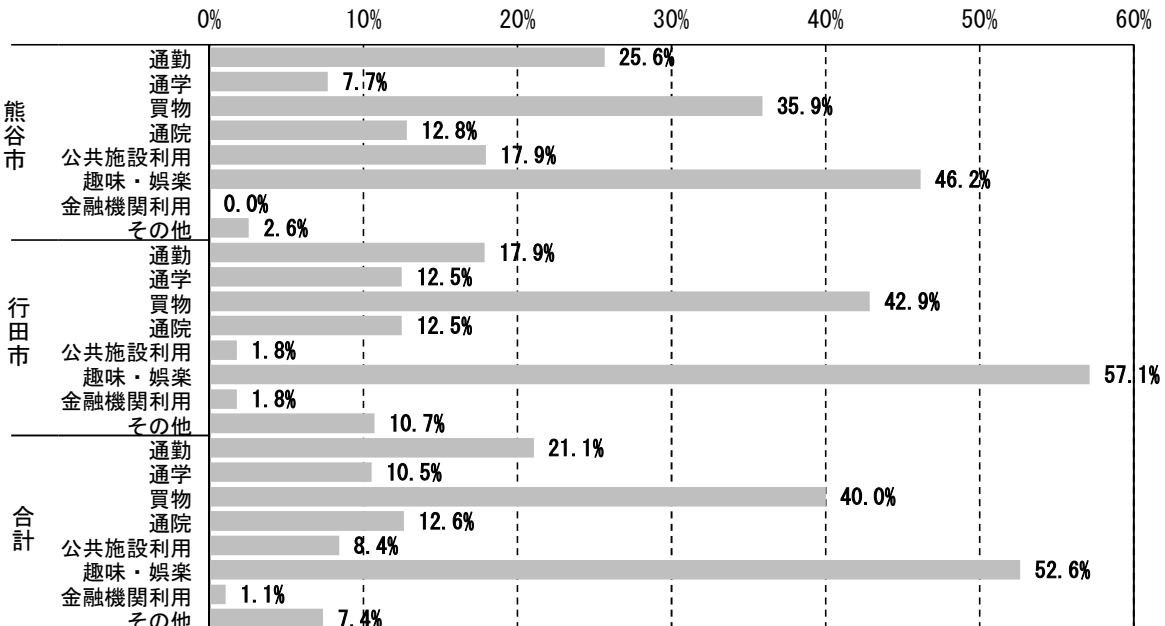
#### ■公共交通の利用有無



#### ■公共交通の種類（複数回答可）



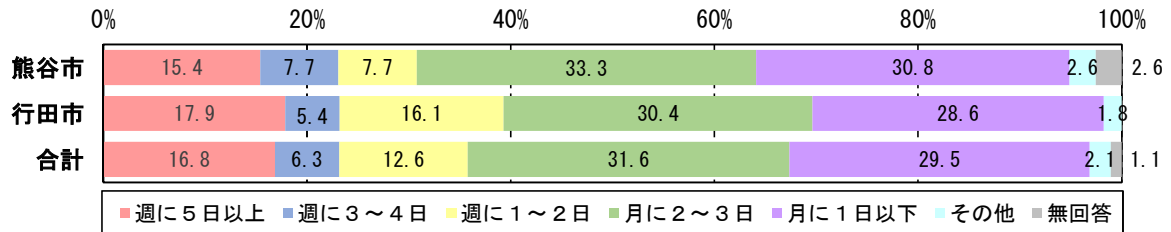
#### ■利用目的（複数回答可）



利用頻度は利用目的を反映して、「月に2～3日」、「月に1日以下」が多くなっている。

公共交通を利用しない理由については、熊谷市、行田市ともに「自分で車を運転して移動できるから」が最も多くなっている。

### ■利用頻度



### ■公共交通を利用しない理由（複数回答可）

